



Unified Contact Center Express 操作ガイド リリース 11.0(1)

初版：2015年08月27日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

はじめに ix

変更履歴 x

このマニュアルについて x

対象読者 xi

関連資料 xi

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート xi

マニュアルに関するフィードバック xii

サービスアビリティ 1

Cisco Unified CCX Serviceability へのアクセス 1

アラーム 2

アラーム設定 2

アラーム設定 2

トレース 5

コンポーネント トレース ファイル 5

トレース パラメータの設定 5

トレース レベル オプション 7

トレース ファイルの場所 12

トレース ファイルの情報 12

ログ プロファイル管理 12

Serviceability ツール 13

ネットワーク サービス 13

ネットワーク サービスの管理 14

データストアの管理 14

データストアの同期 15

ノード間のレプリケーションの管理 15

ネットワーク停止中のレプリケーション 16

更新パラメータ	16
Unified CCX サーバのパフォーマンス モニタリングの設定	17
簡易ネットワーク管理プロトコル	18
SNMP 管理情報ベース (MIB)	18
SNMP の詳細情報	21
リアルタイム モニタリング	23
インストールと設定	23
パフォーマンス モニタリング	24
パフォーマンス オブジェクト	24
パフォーマンス カウンタ	24
Unified CCX のパフォーマンス オブジェクトとカウンタ	25
重要なサービス	25
ツール	25
アラート	26
Unified CCX アラート	26
トレースとログ	27
CUCM テレフォニー データのモニタリング	27
[Triggers] ページ	27
[Call Control Groups] ページ	28
[CTI Ports] ページ	29
[Summary] ページ	29
Cisco Unified Analysis Manager	30
Unified CCX 用の Unified Analysis Manager	30
バックアップと復元	33
重要な考慮事項	34
SFTP の要件	35
マスター エージェントとローカル エージェント	36
マスター エージェントの役割	36
ローカル エージェントの役割	36
バックアップ タスク	37
バックアップ デバイスの管理	37
バックアップ スケジュールの管理	38

手動バックアップの実行	38
バックアップ ステータスの確認	39
復元シナリオ	39
SA または HA 設定の復元（再構築なし）	40
SA 設定の復元（再構築あり）	41
HA 設定の最初のノードのみの復元（再構築あり）	42
HA 設定での 2 番目のノードの復元（再構築あり）	44
HA 設定での両方のノードの復元（再構築あり）	44
トレース ファイル	46
コマンドライン インターフェイス	46
アラーム	47
コマンドライン インターフェイス	51
コマンドライン インターフェイスの概要	51
CLI セッションの開始	51
コマンドのヘルプの取得	52
Ctrl+C キー シーケンスと Exit コマンド	53
CLI セッションの終了	53
その他の CLI コマンド	54
show コマンド	55
show uccx version	55
show uccx jtapi_client version	55
show uccx components	56
show uccx subcomponents	56
show uccx license	57
show uccx trace levels	58
show uccx provider ip axl	58
show uccx provider ip jtapi	59
show uccx provider ip rmcm	59
show uccx trace file size	60
show uccx trace file count	60
show uccx tech dbserver all	61
show uccx tech dbserver log diagnostic	61
show uccx tech dbserver status	62
show uccx dbcontents	62

show uccx dbtable schema	63
show uccx dbschema	64
show uccx dbtable list	64
show uccx dbserver disk	65
show uccx dbserver sessions all	66
show uccx dbserver session	67
show uccx dbserver sessions list	69
show uccx dbserver user list	70
show uccx dbserver user waiting	71
show uccx tech dbserver log message	72
show uccx dbtable contents	73
set コマンド	74
set uccx trace defaults	74
set uccx trace file size component size	74
set uccx trace file count component no-of-files	75
set uccx trace enable	75
set uccx trace disable	76
set password user security	77
set uccx provider ip axl	78
set uccx provider ip jtapi	79
set uccx provider ip rmcm	79
set uccx appadmin administrator	80
run コマンド	81
run uccx hrdataexport	81
run uccx sql database_name sql_query	82
run uccx sp database_name sp_name	83
utils コマンド	84
utils uccx notification-service log	84
utils remote_account	85
utils reset_application_ui_administrator_name	86
utils reset_application_ui_administrator_password	87
utils service	87
utils system upgrade	88
utils system switch-version	89
utils uccx database dbserver integrity	90

utils uccx list license	90
utils uccx delete license licenseName	91
utils uccx jtapi_client update	92
utils uccx prepend custom_classpath	92
utils uccx switch-version db-check	93
utils uccx switch-version db-recover	94
utils uccx syncusers	94
utils uccx syntocuic	95
utils uccx icd clid status	95
utils uccx icd clid enable	96
utils uccx icd clid disable	96
utils uccx icd clid header	96
utils uccx icd clid prefix	97
utils uccx security_filter enable	97
utils uccx security_filter disable	98
utils uccx security_filter status	98
utils uccx dbreplication dump configfiles	99
utils uccx database healthcheck	99
utils uccx database dbperf start	100
utils uccx database dbperf stop	101
file コマンド	101
file uccx view	101
file uccx list custom_file	102
file uccx list prompt_file	102
file uccx get	104
file uccx tail	104
file uccx dump	105
file uccx delete	106
ハイアベイラビリティ コマンド	106
show uccx dbreplication tables	106
show uccx dbreplication servers	107
utils uccx modify remote_IPAddress	108
utils uccx modify remote_hostname	109
utils uccx database forcedatasync	110
utils uccx setuppubrestore	110

utils uccx dbreplication setup	111
utils uccx dbreplication status	111
utils uccx dbreplication templatestatus	112
utils uccx dbreplication repair	113
utils uccx dbreplication start	113
utils uccx dbreplication stop	114
utils uccx dbreplication reset	114
utils uccx dbreplication teardown	115
Cisco Finesse のコマンド	115
utils reset_3rdpartygadget_password	115
Cisco Unified Intelligence Center のコマンド	116
show cuic component-status	116
show cuic properties	117
show cuic tech	118
show cuic trace	120
set cuic properties	121
unset cuic properties	121
set cuic syslog	122
set cuic trace	122
utils cuic purge	123



はじめに

- [変更履歴, x ページ](#)
- [このマニュアルについて, x ページ](#)
- [対象読者, xi ページ](#)
- [関連資料, xi ページ](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート, xi ページ](#)
- [マニュアルに関するフィードバック, xii ページ](#)

変更履歴

変更内容	参照先	日付
Cisco Agent Desktop の削除	<p>次の Cisco Agent Desktop の関連するセクションはこのバージョンから削除されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • utils uccx finesse • show uccx dbserver sessions list • show uccx dbserver user waiting • utils service • show uccx trace levels • コンポーネントトレースファイル, (5 ページ) を更新 コンポーネントトレースファイル, (5 ページ) • ネットワーク サービス, (13 ページ) を更新 ネットワーク サービス, (13 ページ) 	11.0(1)向けドキュメントの初期リリース

このマニュアルについて

『Cisco Unified Contact Center Express 操作ガイド』では、以下について説明し、手順を示します。

- Unified CCX Serviceability
- リアルタイム監視ツール
- Unified CCX ディザスタリカバリ システム
- コマンドラインインターフェイス

対象読者

このガイドは、管理者が Cisco Unified CCX を保守し、トラブルシューティングするのに役立ちます。このマニュアルを使用するには、テレフォニーおよびIP ネットワーキングテクノロジーに関する知識が必要です。

関連資料

マニュアル	Link
『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』	http://www.cisco.com/en/US/partner/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html
『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』	http://www.cisco.com/en/US/partner/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html
『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』	http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/prod_maintenance_guides_list.html
『Cisco Unified Contact Center Express Installation and Upgrade Guide』	http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/prod_installation_guides_list.html
『Cisco Unified Contact Center Express Virtualization Docwiki』	http://docwiki.cisco.com/wiki/Virtualization_for_Cisco_Unified_Contact_Center_Express
『Cisco Unified Contact Center Express Troubleshooting Docwiki』	http://docwiki.cisco.com/wiki/Troubleshooting_Unified_Contact_Center_Express

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス要求の送信、追加情報の収集の詳細については、『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。このドキュメントは、<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> から入手できます。

『What's New in Cisco Product Documentation』では、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧を、RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用して、コンテンツをデスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関するご意見をお寄せいただくには、次のアドレスに電子メールを送信してください：contactcenterproducts_docfeedback@cisco.com

お客様からのご意見をお待ちしております。



第 1 章

サービスアビリティ

Cisco Unified Contact Center Express (Unified CCX) の Web ベースのトラブルシューティング ツールである Cisco Unified CCX Serviceability は、次の機能を提供します。

- ローカルおよびリモートの syslog のアラームを設定する。
 - Unified CCX コンポーネントのトレース設定を行う。これらの設定を有効にすると、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用してトレース情報を収集および表示できます。
 - さまざまな Unified CCX コンポーネントのログ プロファイルを設定および管理する。
 - ネットワーク サービスを管理および制御する。
 - レプリケーションステータス、同期データを表示し、データストアコントロールセンターを使用してクラスタ内の Unified CCX サーバのレプリケーションをリセットする。
 - さまざまなプラットフォーム サービスのパラメータを設定する。
 - さまざまな Unified CCX サービスの Java 仮想マシン (JVM) パラメータを設定し、スレッドとメモリのトレースを収集する。
- [Cisco Unified CCX Serviceability へのアクセス, 1 ページ](#)
 - [アラーム, 2 ページ](#)
 - [トレース, 5 ページ](#)
 - [Serviceability ツール, 13 ページ](#)
 - [簡易ネットワーク管理プロトコル, 18 ページ](#)

Cisco Unified CCX Serviceability へのアクセス

CCX Administration のインターフェイスの初期設定時に設定されたエンド ユーザ クレデンシャルか、インストール時に設定されたアプリケーション ユーザ クレデンシャルのいずれかを使用して、Cisco Unified CCX Serviceability にログインします。

Cisco Unified CCX Serviceability にアクセスするには、URL 形式 `https://<server name or IP address>/uccxservice/` を使用して [Cisco Unified CCX VVB Serviceability] ページにログインします。

アラーム

Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の SysLog ビューアを使用して、アラーム情報を表示できます。アラーム情報の表示方法の詳細については、「Real-Time Monitoring Tool」の項を参照してください。

アラーム設定

さまざまな Unified CCX コンポーネントに対するアラームサーバの設定を表示し、設定するには、Unified CCX Serviceability の [Alarm Configuration] Web ページを使用します。



(注) システムのアラームメッセージの詳細情報を入手するには、*Cisco Unified Serviceability* の [Alarm Definition] ページを使用します。

アラーム設定

アラーム設定を変更するには、[Alarm Configuration] ページを使用します。

ハイアベイラビリティ展開の場合は、2番目のノードにアラーム設定の変更が自動的に伝播されます。2番目のノードに接続できない場合は、更新がリモートノードで失敗したことを示すアラートメッセージが表示されます。

次の表に、このページで使用可能なオプションを定義します。

表 1: アラーム設定

設定	説明
Enable Alarm for Local Syslogs	syslog メッセージとしてローカルに保存されるアラームを有効にします。この設定は、RTMT ツールの Syslog ビューア内のアプリケーションログに表示できます。 Syslog ビューアでのログの表示については、「Real-Time Monitoring Tool」に関するトピックを参照してください。
Enable Alarm for Remote Syslogs	設定された Syslog サーバに送信されるアラームメッセージを有効にします。 [Server Name] フィールド: システムがアラームメッセージを送信する Syslog サーバの IP/ホスト名を指定します。

設定	説明
Alarm Event Level	

設定	説明
	<p>アラーム イベント レベルのメッセージの範囲は、重大度 0（最も重度）から重大度 7（最も軽度）です。アラーム イベント レベルの各オプションの詳細については、後述の説明を参照してください。重大度を選択すると、その重大度以上のすべてのメッセージが送信されます。</p> <p>たとえば、ERROR_ALARM（重大度 3）を選択すると、重大度が 3、2、1、および 0 のすべてのメッセージが送信されます。デフォルトは INFORMATIONAL_ALARM（重大度 6）で、重大度レベルが 6 から 0 までのすべての重大度レベルのメッセージが送信されます。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから次のアラーム イベント レベル オプションのいずれかを選択できます。</p> <p>Emergency</p> <p>コンタクトセンター全体をダウンさせる原因となるシステム障害です。たとえば、「CCX engine crashed or went down abruptly」などがこれにあたります。</p> <p>Alert</p> <p>システムの複数のコンポーネントの障害。たとえば、「Telephony and RCMCM subsystem out of service due to CTI provider failure」などがこれにあたります。</p> <p>Critical</p> <p>システムの主要コンポーネントの障害。たとえば、「Web chat subsystem out of service」などがこれにあたります。</p> <p>Error</p> <p>機能または特定のシナリオが予想どおりに機能していません。たとえば、「Create dialog group failed」などがこれにあたります。</p> <p>Warning</p> <p>間もなく一部の制限値またはしきい値に違反します。たとえば、「Historical reporting internal queue near capacity」などがこれにあたります。</p> <p>Notice</p> <p>主な操作の通知がトリガーされます。たとえば、「Engine Shutdown initiated by Administrator」などがこれにあたります。</p> <p>Informational</p> <p>システム内のさまざまな軽微なイベントの発生に関する情報です。たとえば、「Backup Operation completed」などがこれにあたります。</p>

設定	説明
	Debug 問題のデバッグに役立つ詳細なトレースです。たとえば、一部の CCX イベントの詳細情報などがこれにあたります。

トレース

トレース ファイルは、Cisco Unified Contact Center Express (Unified CCX) コンポーネントからのアクティビティを記録するログファイルです。トレースファイルは、特定のエラーの詳細情報を提供し、エラーのトラブルシューティングに役立ちます。

Unified CCX システムでは、システムで実行されているすべてのスレッドに関する情報も生成されます。この情報は、スレッドダンプファイルに保存され、トラブルシューティングの際に役立ちます。

コンポーネント トレース ファイル

コンポーネント トレース ファイルには、各コンポーネントに関する情報が含まれます。次の Unified CCX コンポーネントにトレース ファイルを作成できます。

- Cisco Unified CCX Administration
- Cisco Unified CCX クラスター ビュー デーモン
- Cisco Unified CCX Editor
- Cisco Unified CCX Engine
- Cisco Unified CM テレフォニー クライアント
- Cisco Unified Intelligence Center Services
- Cisco Unified CCX Socket.IO Service

さまざまなサービスのトレース ファイルに含める情報を設定した後で、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool のトレースおよびログのセントラル オプションを使用して、それらの情報を収集および表示できます。詳細については、「Real-Time Monitoring Tool」の項を参照してください。

トレース パラメータの設定

トレース ファイルの情報を更新し、ロギングをアクティブ化または非アクティブ化するには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CCX Serviceability メニューから [Trace] > [Configuration] を選択します。
- ステップ 2** [Select Service] ドロップダウンリストボックスから、トレースを設定するサービスまたはコンポーネントを選択します。次に、[Go] をクリックします。
表示されるさまざまな Unified CCX サブファシリティまたはサービスのデバッグ レベルは、選択したサービスによって異なる場合があります。
- ステップ 3** 表示されたチェックボックスを使用して選択したサービスの1つ以上のライブラリまたはサブファシリティのデバッグ レベルを更新し、[Save] をクリックします。
- ステップ 4** トレース ファイルの数とサイズを制限するには、次の表を使用してトレース出力設定を指定できます。

フィールド	説明
Maximum Number of Files	システムが保持できるトレースファイルの最大数。 指定したサービスのトレースファイルの総数を指定します。Cisco Unified CCX Serviceability では、ファイルを識別するために、Cisco001MADM14.log のようにファイル名にシーケンス番号が自動的に追加されます。シーケンス中の最後のファイルが一杯になると、最初のファイルのトレースデータが上書きされます。デフォルト値は、サービスによって異なります。
Maximum File Size	このフィールドは、選択したサービスによってトレースファイルの最大サイズをキロバイト単位またはメガバイト単位で指定します。デフォルト値は、選択したサービスによって異なります。

注意 デバッグのロギングのみをアクティブにし、デバッグセッションが完了したら、ロギングを必ず非アクティブ化してください。

- (注)
- パブリッシャ ノードの Cisco Unified Intelligence Center サービスがダウンしている場合は、トレース設定を保存できません。
 - Socket.IO サービスがダウンしている場合は、トレース設定を保存できません。socket.IO サービスを含むノードがダウンしている場合は、その特定のノードでログ レベルは保存されません。

トレース レベル オプション

Unified CCX Engine などのコンポーネントに関するすべての情報を記録するトレース ファイルは大きくなり、読み取りが難しくなることがあります。トレース ファイルを管理しやすくするために、Cisco Unified CCX システムでは、[Trace Level Options] ページを使用して、情報を記録するサブファシリティを指定できます。

コンポーネントごとに、1つ以上のデバッグ トレース レベル オプションを選択できます。[Trace Level] ページの選択でトレース ファイルにシステムが送信するデバッグ メッセージの詳細レベルを指定します。たとえば、[Debugging] オプションを選択すると、システムは基本的なエラーメッセージのみを送信しますが、[XDebugging5] オプションを選択した場合は、システムはエラー、警告、情報、デバッグ、詳細メッセージなどの詳細情報をトレース ファイルに送信します。

次の表で、トレース ファイルのサブファシリティについて説明します。

表 2: トレース ファイルのサブファシリティ

コンポーネント コード	説明
AC_CLUSTER	アーカイブ クラスタ コンポーネント
AC_CONFIG	アーカイブ コンフィギュレーション コンポーネント
AC_DATABASE	アーカイブ データベース コンポーネント
AC_JTAPI	JTAPI アーカイブ コンポーネント
AC_OS	アーカイブ オペレーティング システム コンポーネント
ADM	管理クライアント
ADM_CFG	管理コンフィギュレーション
APP_MGR	Applications Manager
ARCHIVE_MGR	Archive Manager
AW_CFG	Restore Administration Configuration
BARBI_CLI	Backup and Restore Client Interface
BOOTSTRAP_MGR	Cisco Unified CCX Bootstrap Manager
CFG_MGR	Configuration Manager
CHANNEL_MGR	Channel Manager
CLUSTER_MGR	Cluster Manager

コンポーネントコード	説明
CONTACT_MGR	Contact Manager
CONTACT_STEPS	Contact ステップ
CRA_CMM	Cisco Unified CCX ClusterMsgMgr
CONTEXT_SERVICE	コンテキスト サービス
CRA_HRDM	Cisco Unified CCX Historical Reporting Data Manager
CVD	クラスタ ビュー デーモン
DB	データベース
DBPURGE_MGR	Database Purge Manager
DESKTOP	Cisco Unified CCX Editor Desktop
DOC_MGR	Document Manager
EDT	Cisco Unified CCX Editor 一般
ENG	Cisco Unified CCX Engine
EXECUTOR_MGR	Executor Manager
EXPR_MGR	Expression Manager
FILE_MGR	File Manager
GENERIC	ファシリティの汎用カタログ
GRAMMAR_MGR	Grammar Manager
GRP_CFG	Group Configuration
HOLIDAY_MGR	Holiday Manager
HR_MGR	Historical Reports Manager
ICD_CTI	Cisco Unified CCX CTI サーバ
ICD_HDM	IPCC Express Historical Data Manager
ICD_RTDM	Cisco Unified CCX ICD Real-Time Data Manager
IVR_RTDM	Cisco Unified CCX IP IVR Real-Time Data Manager

コンポーネントコード	説明
IO_ICM	Cisco Unified ICME Input/Output
JASMIN	Java Signaling and Monitoring Interface
LIB_APPADMININTERCEPTOR	Cisco Unified CCX Administration Interceptor Library
LIB_AXL	AXL Library
LIB_CFG	Configuration Library
LIB_CLUSTER_CFG	クラスタの設定ライブラリ
LIB_CRTP	CRTP Library
LIB_DATABASE	Database Library
LIB_DIRECTORY	Directory Access Library
LIB_EVENT	Event Message Library
LIB_ICM	Cisco Unified ICME Library
LIB_JASPER	Jasper Tomcat Library
LIB_JCUP	JavaCup Library (式の解析用)
LIB_JDBC	JDBC Library
LIB_JINI	JINI サービス
LIB_JMAIL	Java Mail Library
LIB_JLEX	JLEX Library (式の解析用)
LIB_LICENSE	License Library
LIB_MEDIA	Media Library
LIB_RMI	Java Remote Method Invocation Library
LIB_SERVLET	Servlet Library
LIB_TC	Tomcat Library
LOG_MGR	Log Manager
MRCP_CFG	MRCP Configuration

コンポーネントコード	説明
MGR_MGR	Manager Manager
NODE_MGR	Node Manager
PALETTE	Editor Palette
PROMPT_MGR	Prompt Manager
PURGING	ページ
RPT	レポート
RTPPORT_MGR	RTP Manager
SCRIPT_MGR	Script Manager
SESSION_MGR	Session Manager
SIP_STACK	SIP Stack ログイン
SOCKET_MGR	Socket Manager
SS_APP	Application サブシステム
SS_CHAT	チャット サブシステム
SS_CM	Contact Manager サブシステム
SS_CMT	Cisco Media Termination サブシステム
SS_DB	データベース サブシステム
SS_EMAIL	電子メール サブシステム
SS_HTTP	HTTP サブシステム
SS_ICM	Cisco Unified ICME サブシステム
SS_MRCP_ASR	MRCP ASR サブシステム
SS_MRCP_TTS	MRCP TTS サブシステム
SS_OUTBOUND	Outbound Dialer Express サブシステム (MIVR ログ ファイルを使用)
SS_RM	Resource Manager サブシステム

コンポーネントコード	説明
SS_RMCM	Resource Manager Contact Manager サブシステム
SS_ROUTEANDQUEUE	ルートおよびキュー サブシステム
SS_RTR	リアルタイム報告サブシステム
SS_SIP	SIP サブシステム
SS_TEL	JTAPI サブシステム (テレフォニー)
STEP_CALL_CONTROL	Call Control ステップ
STEP_CONTEXT_SERVICE	Context Service ステップ
STEP_MEDIA_CONTROL	Media Control ステップ
STEP_SESSION	Sessions ステップ
STEP_SESSION_MGMT	Session Management ステップ
STEP_USER	User ステップ
STEP_CALL_CONTACT	Call Contact ステップ
STEPS_CONTACT	Contact ステップ
STEPS_DB	Database ステップ
STEPS_DOCUMENT	Document ステップ
STEPS_EMAIL	E-mail ステップ
STEPS_GENERAL	General ステップ
STEPS_GRAMMAR	Grammar ステップ
STEPS_HTTP	HTTP ステップ
STEPS_ICM	Cisco Unified ICME ステップ
STEPS_IPCC_EXP	Cisco Unified CCX ステップ
STEPS_JAVA	Java ステップ
STEPS_PROMPT	Prompt ステップ

コンポーネントコード	説明
STEPS_SESSION	Session ステップ
UCCX_WEBSERVICES	チャット サブシステム
USR_MGR	User Manager
WEB_STEPS	HTTP Contact ステップ

Cisco Unified CCX 製品を 7845 マシンで実行し、トレースをオン（デフォルト）にした場合は、[Busy Hour Call Completions (BHCC)] を 1 時間あたり 4500 コールに制限してください。高い BHCC を実行する場合は、デバッグトレースをオフにしてください。オフにするトレースサブファシリティは、ICD_CTI、SS_TEL、SS_RM、SS_CM、および SS_RMCM です。

トレース ファイルの場所

Unified CCX サーバは、Unified CCX コンポーネントをインストールしたディレクトリの Log ディレクトリにトレース ファイルを保存します。Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用してトレース情報を収集し、表示できます。

トレース ファイルの情報

トレースファイルには、標準 Syslog フォーマットの情報が含まれます。ファイルには、記録されたイベントごとに次の情報の一部またはすべてが含まれます。

- 行番号
- イベントの発生日時
- ファシリティおよびサブファシリティ（コンポーネント）名
- 重大度
- メッセージ名
- 説明
- パラメータと値

ログ プロファイル管理

ログ プロファイルには、次に示す各種 Unified CCX サービスの複数のトレース設定が集約され、保存されています。

- Cisco Unified CCX Engine（トレースの名称は MIVR）

- Cisco Unified CCX Administration (トレースの名称は MADM)
- Cisco Unified CCX Cluster View Daemon (トレースの名称は MCVD)

[Unified CCX Serviceability] メニューから [Trace] > [Profile] を選択し、[Log Profiles Management] ページにアクセスします。



(注) ログ プロファイルの管理は Socket.IO サービスをサポートしません。

Unified CCX のログ プロファイルは、次の 2 種類のいずれかです。

- 1 システム ログ プロファイル: これらのログ プロファイルは、Unified CCX とともにプリインストールされています。これらのプロファイルは変更できません。
- 2 カスタム ログ プロファイル: システム プロファイルによって生成されたトレース設定が特定のシナリオに十分でない場合は、カスタム ログ プロファイルを作成してトラブルシューティングを改善することができます。これらのカスタム ログのプロファイルは、必要に応じて作成し、有効にできます。



- (注)
- Unified CCX のハイ アベイラビリティ展開では、すべてのログ プロファイル操作がクラスタの両方のノードに反映されます。
 - 選択したログ プロファイルがシステムで最後に有効化されたプロファイルの場合、そのプロファイルは削除できません。

Serviceability ツール

ネットワーク サービス

ネットワーク サービスには、システムが機能するために必要であり、デフォルトでアクティブ化するサービスが含まれています。

アプリケーションのインストール後、ネットワーク サービスが自動的に起動します。[Control Center—Network Services] Web ページに表示されるサービスのリストは、Unified CCX のライセンスパッケージによって異なります。Unified CCX Premium ライセンスがある場合、Cisco Unified Contact Center Express (Unified CCX) Serviceability が次のカテゴリにネットワーク サービスを分類します。

- システム サービス
- 管理サービス
- DB サービス

- Finesse サービス



(注)

- Unified CCX Engine サービスの情報は、無効なライセンスがアップロードされたときに [UCCX Serviceability] ページから削除されます。
- システム サービスおよび管理サービスの情報のみが、[Unified CCX Node Services] セクションに表示されます。

ネットワーク サービスの管理

Cisco Unified CCX Serviceability のコントロールセンターでは、次の作業を行うことができます。

- Unified CCX サービスの起動、停止、および再起動
- Unified CCX サービスのステータスの表示および更新

Unified CCX Serviceability メニューから [Tools] > [Control Center - Network Services] を選択して、ネットワーク サービスを管理します。



ヒント

問題をトラブルシューティングするには、Cisco Unified CCX Serviceability と Cisco Unified Serviceability の両方でサービスを管理する必要がある場合があります。Cisco Unified Serviceability サービスについては、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』で説明されています。



(注)

Cisco Unified CCX Serviceability サービスは Unified CCX Serviceability の Web インターフェイスを使用して起動または停止できません。CLI を使用する必要があります。CLI を使用して起動および停止できるサービスのリストと詳細な手順については、「コマンドラインインターフェイス リファレンス」の項を参照してください。

データストアの管理

データストアは、履歴、エージェント、リポジトリ、設定データを Unified CCX クラスタのすべてのサーバについて管理し、監視できるコンポーネントです。

データストア コントロールセンターを使用して、次の機能を実行します。

- クラスタ内のデータストアの概要とそれらの関係を取得する。
- データストアの読み取り/書き込みアクセスを管理する。
- レプリケーションの状態を監視および制御する（エージェント、履歴、およびリポジトリデータストアにのみ使用可能）。



(注) ハイ アベイラビリティとリモート サーバのサポートは、複数サーバの展開でのみ使用可能です。

Unified CCX クラスタでは、システム全体にわたるデータ レプリケーションにパブリッシャおよびサブスライバ データベース モデルを使用します。通常は、データベース マスターはデータのソースとして機能し、他のノードはデータのターゲットとして機能します。つまり、データベース マスターはパブリッシャであり、他のノードはサブスライバです。



(注) [Tools] > [Datastore Control Center] > [Datastores] ページで、クラスタにインストールされた最初のノードがパブリッシャとして (Pマークのアイコンで) マークされます。Unified CCX では、「パブリッシャ」という用語はクラスタ内の最初のノードのみを示すために使用されており、ノードがデータのソースであることは示していません。通常、データベースのマスター ノードがソースとして機能し、他のノードが宛先として機能します。

データストアの同期

2つのノード間で不一致がある場合、次の手順を使用して各データストアのデータを同期します。

手順

[Tools] > [Datastore Control Center] > [Datastores] を選択し、[Synchronize Data] をクリックします。

(注) データストアを同期しても、設定データストア内の不一致は更新されません。

ノード間のレプリケーションの管理

[Datastore Control Center] の [Replication Server] メニュー オプションでは、レプリケーション ステータスを表示し、クラスタ内のすべてのサーバのデータ ストアの 2 つのノード間のレプリケーションをリセットできます。このメニューはハイ アベイラビリティ展開でのみ使用できます。

デフォルトでは、2つのノード間のレプリケーションは、長時間にわたるネットワークの停止により相互に同期できない場合に削除されます。この時間は、一方のノードから別のノードとの間で送信される要求の量やサーバの負荷によって異なります。ネットワークの停止によってレプリケーションが停止した場合、アラートが管理者に送信されるため、管理者は修正措置を取ることができます。

レプリケーションが削除された場合、管理者は Cisco Unified CCX Serviceability のメニューから [Tools] > [Datastore Control Center] > [Replication Servers] サブメニューに移動して、[Reset Replication] をクリックできます。これにより、ノード間でレプリケーションが確立され、データ同期 (修復) プロセスが開始されます。[Check Details] アイコンをクリックして、修復のステータスを監視します。

ネットワークの停止によってレプリケーション設定が削除されなかった場合は、ネットワークが機能可能になった後で、データベース間でデータが自動的に同期されます。数秒の停止の場合は通常、管理者は対応する必要はありません。システムが自動的に同期を行うことができます。



(注) ノード間のレプリケーションが削除された場合でも、データは Unified CCX エンジンにアクセス可能なデータベースに書き込むことができます。

サブスライバノードが機能しておらず、パブリッシャから設定更新を行う必要がある場合は、[Disable CDS and HDS] アイコンまたはボタンを使用してサブスライバの Config Data Store (CDS) と履歴データストア (HDS) を無効にします。サブスライバノードが機能するようになったら、同じ切り替えボタンを使用してサブスライバの CDS と HITACHI を有効にできます。



注意 CDS が再度有効になると、サブスライバノードのアプリケーション管理と履歴データの設定が上書きされます。

ネットワーク停止中のレプリケーション

デフォルトでは、2つのノード間のレプリケーションは、長時間にわたるネットワークの停止により相互に同期できない場合に削除されます。この時間は、一方のノードから別のノードとの間で送信される要求の量やサーバの負荷によって異なります。ネットワークの停止によってレプリケーションが停止した場合、アラートが管理者に送信されるため、管理者は修正措置を取ることができます。

レプリケーションが削除された場合、管理者は Cisco Unified CCX Serviceability のメニューから [Tools] > [Datastore Control Center] > [Replication Servers] サブメニューに移動して、[Reset Replication] をクリックできます。これにより、ノード間でレプリケーションが確立され、データ同期 (修復) プロセスが開始されます。[Check Details] アイコンをクリックして、修復のステータスを監視します。

ネットワークの停止によってレプリケーション設定が削除されなかった場合は、ネットワークが機能可能になった後で、データベース間でデータが自動的に同期されます。数秒の停止の場合は通常、管理者は対応する必要はありません。システムが自動的に同期を行うことができます。



(注) ノード間のレプリケーションが削除された場合でも、データは Unified CCX エンジンにアクセス可能なデータベースに書き込むことができます。

更新パラメータ

Unified CCX サーバのさまざまなサービスを表示し、更新するには、[Service Parameters] ページを使用します。パラメータを設定する前に、次の前提条件が満たされていることを確認します。

- サーバが設定されている。
- サービスがサーバで使用できる。

**注意**

サービス パラメータに加える変更の内容によっては、システムに障害が発生する場合があります。変更しようとしている機能を完全に理解している場合と、Cisco Technical Assistance Center (TAC) から変更の指定があった場合を除いて、サービス パラメータに変更を加えないようにしてください。

次のサービスは Unified CCX でサポートされています。

- Cisco AMC Service
- Cisco DRF Local
- Cisco DRF Master
- Cisco Log Partition Monitoring Tool
- Cisco RIS Data Collector
- Cisco Serviceability Reporter
- Cisco Trace Collection Service

詳細については、次の URL で入手可能な『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/partner/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

Unified CCX サーバのパフォーマンス モニタリングの設定

Unified CCX サーバのパフォーマンスを監視するには、[Performance Configuration and Logging] ページを使用して、Java 仮想マシン (JVM) のパラメータを設定し、スレッドとメモリのトレースをダンプします。

特定のサーバの特定のサービス用に JVM パラメータを設定するには、次の手順を使用します。

手順

- ステップ 1** [Tools] > [Performance Configuration and Logging] を選択し、JVM オプションを設定するサーバとサービスを選択します。
- ステップ 2** [Dump Thread Trace] をクリックして、選択したサーバの選択したサービスのスレッドトレースをダンプします。Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用して、そのファシリティのログフォルダから対応する `jvm.log` を収集できます。
- ステップ 3** [Dump Memory Trace] をクリックして、メモリトレースをダンプします。これにより、次の 2 種類のログがそのファシリティのログフォルダに作成されます。
 - Memory-<facility name>-<time stamp>.hprof (ヒープ ダンプの場合)

- histo-<facility name> <time stamp>.log (ヒストグラムの場合)

- ステップ 4** このページの [Enable] または [Disable] オプション ボタンをクリックして、JVM オプションを変更します。
- ステップ 5** [Update JVM Options] をクリックして、選択したノードの選択したサービスの新しい設定を更新します。

簡易ネットワーク管理プロトコル

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) は、ネットワーク デバイス間で管理情報を交換するための業界標準インターフェイスです。SNMP では、Unified CCX システムを監視および管理することができます。また、Cisco Unified CCX システムで生成された重大度の高いメッセージやエラーを自動的に通知する SNMP トラップも設定できます。

[Cisco Unified Serviceability] の Web インターフェイスを使用して SNMP を設定できます。

SNMP 管理情報ベース (MIB)

管理情報ベース (MIB) は、階層的に編成された情報のコレクションです。MIB は、オブジェクト ID で参照される管理対象オブジェクトで構成されます。管理対象オブジェクトは、1 つまたは複数のオブジェクトインスタンスで構成され、基本的に変数です。MIB は、ステータスの監視、プロビジョニング、および通知を提供します。

表 3: **SNMP MIB**

MIB	エージェント サービス
CISCO-VOICE-APPS-MIB	Cisco Unified CCX 音声サブエージェント
CISCO-CDP-MIB	Cisco CDP Agent
CISCO-SYSLOG-MIB	Cisco Syslog Agent
SYSAPPL-MIB	System Application Agent
MIB-II	MIB2 Agent
HOST-RESOURCES-MIB	Host Resources Agent



(注)

- Unified CCX の以前のリリースとは異なり、Unified CCX 9.0(1)以降のバージョンの SysAppl MIB の実装では、Unified CCX でアクティブ化されているサービスとアクティブ化されていないサービスを区別しません。Unified CCX にインストールされているすべてのサービスが表示されます。
- Unified CCX 9.0(1)以降のバージョンでは、SysAppl MIB に、Unified CCX サブシステム情報とステータス情報は表示されません。サブシステムとステータス情報は、Cisco Unified CCX Serviceability の Web インターフェイスを使用して表示できます。
- また、syslog メッセージは CISCO-SYSLOG-MIB を使用して SNMP トラップとして送信できます。詳細については CISCO-SYSLOG-MIB に関する項を参照してください。Unified CCX の重要な機能の障害に関連付けることができます。

次の項で、CISCO-VOICE-APPS-MIB について説明します。他の CCX がサポートする MIB の詳細については、次の URL で入手可能な『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』の「Cisco Unified CM SNMP」の章を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/partner/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

CISCO-VOICE-APPS-MIB

CISCO-VOICE-APPS-MIB は Unified CCX サーバでプロビジョニングされているインストール済みのワークフローアプリケーションに関連する情報を表示します。また、Unified CCX でサポートされている SNMP トラップに関する情報も表示します。CISCO-VOICE-APPS-MIB は、[Unified CCX Serviceability] の Web インターフェイスを使用して管理できます。

Unified CCX 音声サブエージェント

Cisco Unified CCX の音声サブエージェントサービスは、CISCO-VOICE-APPS-MIB を実装します。Cisco Unified CCX 音声サブエージェントサービスは Cisco Unified CCX SNMP Java アダプタを使用して SNMP マスター エージェントと通信します。Unified CCX 音声サブエージェントが正しく動作するには、Cisco Unified CCX SNMP Java アダプタ サービスが稼働している必要があります。

CISCO-VOICE-APPS-MIB の詳細については、次の URL を参照してください。 <ftp://ftp.cisco.com/pub/mibs/v2/CISCO-VOICE-APPS-MIB.my>



(注)

- Unified CCX では、CISCO-VOICE-APPS-MIB を介して Unified CCX ワークフロー情報を公開しますが、ワークフローテーブル (cvaWorkflowInstallTable オブジェクト) でのウォーク時にアプリケーション行ごとに 1 つのトリガーのみが返されます。ワークフロー アプリケーションに関連付けられたトリガーが複数ある場合、これらのトリガーは別のエントリ (行) として表示されます。

SNMP トラップ

Unified CCX の機能ブロックであるサブシステムは syslog または SNMP トラップにルーティングされたアラームを送信します。SNMP トラップは、Unified CCX サブシステム/モジュール/プロセスが開始または停止したとき、あるいはモジュールでランタイム障害が発生したときに生成されます。これらの障害を主要なコンポーネントごとに追跡して、Unified CCX システムの健全性を追跡できます。

次のトラップは CISCO-VOICE-APPS-MIB の一部としてサポートされています。

トラップ名	説明
cvaModuleStart	cvaModuleStart 通知は、アプリケーション モジュールまたはサブシステムが正常に起動し、インサービス状態に移行したことを示します。
cvaModuleStop	cvaModuleStop 通知は、アプリケーション モジュールまたはサブシステムが停止したことを示します。障害の原因がわかっている場合は、その原因がトラップ メッセージに表示されます。
cvaModuleRun TimeFailure	cvaModuleRun TimeFailure 通知は、ランタイム障害が発生したことを示します。障害の原因がわかっている場合は、その原因がトラップ メッセージに表示されます。
cvaProcessStart	cvaProcessStart 通知は、プロセスがたった今開始されたことを示します。
cvaProcessStop	cvaProcessStop 通知は、プロセスがたった今停止されたことを示します。

ModuleStart トラップおよび ModuleStop トラップは、Cisco Unified CCX Engine、Cisco Unified CCX Cluster View Daemon、Cisco Unified CCX Administration などの主要な Unified CCX サービスやそれらのモジュール/サブシステムがそれぞれ開始および停止されたときに生成されます。

ProcessStart トラップおよび ProcessStop トラップは、Cisco Unified CCX Engine、Cisco Unified CCX Cluster View Daemon、Cisco Unified CCX Administration などの主要な Unified CCX サービスが開始および停止されたときに生成されます。

通知先を設定するには、Cisco Unified Serviceability の [SNMP Notification Destination Configuration] ページを使用します。



(注) SNMP トラップは、Unified CCX サービスまたはそれらのサブシステムがアウトオブサービスになるか、インサービスの場合は生成されません。これらのイベントは、リモート syslog メッセージとして送信され、任意のサードパーティ Syslog ビューアを使用して表示できます。CCX サービスとそれらのサブシステムおよびモジュールは、[Tools]>[Control Center Network Services] にある [Cisco Unified CCX Serviceability] から参照できます。



(注)

- Unified CCX は、SNMP トラップ V3 の通知をサポートしていません。
- CISCO-VOICE-APPS-MIB は INFORM 通知をサポートしていません。

対応するトラップフラグが有効な場合、すべての通知のトラップが即座に送信されます。通知先を設定する前に、必要な SNMP サービスがアクティブ化され、動作していることを確認します。また、コミュニティストリング/ユーザに対する特権が正しく設定されていることを確認します。

SNMP の詳細情報

SNMP バージョン 1、バージョン 2C、バージョン 3、SNMP システム グループの設定、SNMP informs および SNMP trap のパラメータなどの SNMP に関連する詳細情報については、次の URL で入手可能な『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/partner/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html



第 2 章

リアルタイム モニタリング

Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) はクライアント側アプリケーションとして実行されるツールで、HTTPS および TCP を使用してシステムパフォーマンスをモニタします。Unified RTMT は、HTTPS を使用してデバイスに直接接続し、システムの問題をトラブルシューティングできます。

Unified RTMT を使用すると、次の作業を実行できます。

- システムの健全性をモニタするための、事前に定義された管理オブジェクトをモニタする。
- 値がユーザ設定のしきい値を超えるか下回ったときに、オブジェクトのアラートを電子メールメッセージ形式で生成する。
- トレースを収集し、RTMT に備わっているデフォルトのビューアで表示する。
- SysLog ビューアで syslog メッセージを表示する。
- パフォーマンス モニタリング カウンタと連動する。



(注) Unified RTMT がデスクトップ上のアプリケーションとして動作していない場合でも、アラームやパフォーマンス モニタリングの更新などのタスクは、サーバ上でバックグラウンド処理として続行されます。

- [インストールと設定, 23 ページ](#)
- [パフォーマンス モニタリング, 24 ページ](#)
- [ツール, 25 ページ](#)

インストールと設定

Unified RTMT は、[Cisco Unified Contact Center Express Administration] Web インターフェイスの [Tools] > [Plug-ins] メニューからダウンロードできます。インストールおよび設定の手順について

は、次の URL で入手可能な『*Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide*』の「Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool」の項を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/partner/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

パフォーマンス モニタリング

Unified CCX は、アプリケーション パフォーマンス モニタリングにパフォーマンス カウンタ（perfmon カウンタと呼ばれる）を提供します。perfmon カウンタは、さまざまなパフォーマンス値を明確にするのに役立ち、アプリケーションのパフォーマンスをリアルタイムで追跡できるようにします。

perfmon カウンタには、カウンタの名前やカウンタのインデックス、スケール、タイプ、カウンタ設定時に設定するサブカウンタ、現在の値、カウンタインスタンスデータを含むマップなど、カウンタベースの情報が含まれています。各パフォーマンス カウンタのインスタンスオブジェクトには、インスタンス ID や現在の値などのインスタンスベースのデータが含まれています。

コンピュータで perfmon カウンタをローカルに記録し、Unified RTMT でパフォーマンス ログビューアを使用して、収集した perfmon CSV ログファイルまたは Real-time Information Server Data Collection (RISDC) の perfmon ログを表示することができます。perfmon カウンタを表示するには、Unified RTMT ツールで [System] > [Performance] を選択します。

パフォーマンス オブジェクト

Unified RTMT は、システムの健全性の監視に役立つ一連のデフォルト モニタリング オブジェクトを提供します。デフォルトのオブジェクトには、システムおよびその他のサポート対象のサービスに関するパフォーマンス カウンタまたは重大イベントのステータスが含まれます。

事前に定義されたシステム カウンタについて、システムによって情報が 10 秒ごとに記録されません。

パフォーマンス カウンタ

システム パフォーマンスの問題をトラブルシューティングするには、perfmon オブジェクトに関連付けられたカウンタ（クエリー）をパフォーマンスモニターに追加し、カウンタに関するチャートを表示します。新しいカウンタを追加するには、[System] > [Performance] > [Open Performance Monitoring] を選択します。

モニタリング オブジェクトおよびカウンタの詳細については、次の URL で入手可能な『*Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide*』の「Performance Monitoring」の項を参照してください。

http://www.cisco.com/en/us/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

Unified CCX のパフォーマンス オブジェクトとカウンタ

次に Unified CCX アプリケーション固有のオブジェクトを示します。

- Unified CCX データベース モニタ
- Unified CCX エンジンの JVM ヒープ
- Intelligence Center のデータベースのパフォーマンス情報
- Intelligence Center の JVM 統計情報
- Intelligence Center のシステム状態テーブル
- Intelligence Center のスレッドプール セクション
- Intelligence Center の Tomcat コネクタ
- レポート エンジン情報
- Ramfs
- SchedulerInfo



(注) カウンタを表示するために RTMT のオブジェクトを拡張します。各カウンタを右クリックし、[Counter Description] を選択して説明を表示します。

重要なサービス

重要なサービスのモニタリング機能は、重要なサービスの名前、ステータス（サービスが稼働しているか、ダウンしているか、アクティブ化されているか、管理者によって停止されているか、起動中か、停止中か、不明な状態か）、およびシステムでサービスが機能可能になっている間の経過時間を表示します。



(注) Unified RTMT は、Unified CCX のサービスの部分的な実行ステータスを表示しません。たとえば、一部のサブシステムがダウンしている場合は、「重要なサービス」の下で「実行中」であるとしてサービスを表示しません。Unified CCX サービスの部分的なステータスは、**Unified CCX Serviceability Administration** の Web インターフェイスからのみ表示できます。

ツール

Unified RTMT は、システムの問題を監視してトラブルシューティングを行うためのさまざまなツールを提供します。次の項では、これらのツールについて簡単に説明します。

アラート

Unified CCX は、アクティブ化されたサービスが起動できなかった場合など、定義された条件が満たされた場合にアラートメッセージを生成し、管理者に通知します。システムは、電子メールとしてアラートを送信するか、RTMT のポップアップ メッセージとしてアラートを表示します。

RTMT には、アラートの変更をサポートする、事前に設定されたアラートと、ユーザが定義したアラートが含まれています。両方のタイプの設定作業を実行できますが、事前設定のアラートは削除できません（ユーザ定義のアラートの追加および削除は可能です）。事前に定義されたアラートは、イベント（アラーム）通知だけでなく、`perfmon` カウンタ値のしきい値に設定されます。

システム アラートとアラートの管理の詳細については、『*Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide*』の「Alerts」トピックを参照してください。

http://www.cisco.com/en/us/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

Unified CCX アラート

次のリストに、事前に設定された Unified CCX アラートを示します。

- DB CRA % Space Used
- DBReplicationStopped
- HistoricalDataWrittenToFiles
- Intelligence Center CUIC_DATABASE_UNAVAILABLE
- Intelligence Center CUIC_DB_REPLICATION_FAILED
- Intelligence Center CUIC_REPORT_EXECUTION_FAILED
- Intelligence Center CUIC_UNRECOVERABLE_ERROR
- CCXToCUICAdminSyncFailed
- CCXToCUICCVDSyncFailed
- CCXToCUICEngineSyncFailed
- MediasenseStatusDown
- PurgeInvoked
- UnifiedCCXEngineMemoryUsageHigh
- EMAIL_SERVER_DOWN
- SocialMinerTomcatServiceDown
- SocialMinerXMPPServiceDown
- ContextServiceInitializationFailed



(注) アラートの値を表示または編集するには、アラートをクリックし、[Set Alert/Properties...] を選択します。

トレースとログ

RTMT の Trace and Log Central 機能では、特定の日付範囲や絶対時間に対してオンデマンドのトレース収集を設定できます。指定した検索条件が含まれているトレース ファイルを収集し、後で使用するためにそのトレース収集条件を保存したり、繰り返し行う 1 つのトレース収集をスケジュールし、トレース ファイルをネットワーク上の SFTP サーバまたは FTP サーバにダウンロードしたり、クラッシュ ダンプ ファイルを収集したりできます。

ファイルを収集した後、それらのファイルは、RTMT 内の対応するビューアで表示できます。また、リモートブラウザ機能を使用すると、トレース ファイルをダウンロードしなくても、サーバ上のトレースを表示できます。トレース ファイルは、RTMT に付属する内部ビューアを選択するか、外部ビューアとして適切なプログラムを選択することで、開くことができます。

トレースとログの詳細については、次の URL で入手可能な『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』の「Tools for traces, logs, and plug-ins」を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/partner/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

CUCM テレフォニー データのモニタリング

次のエンティティは、CUCM テレフォニー データ RTMT を使用して監視できます。

- Triggers
- コール制御グループ
- CTI ポート

CUCM テレフォニー データにアクセスするには、RTMT で [Cisco Unified CCX] タブをクリックします。

[Triggers] ページ

[Triggers] ページには、Unified CCX 用に設定されたトリガーに関する次の情報が表示されます。

表 4: [Triggers] ページのオプション

カウンタ	説明
TriggerDN	このフィールドには、トリガーに関連付けられたディレクトリ番号が表示されます。

カウンタ	説明
Trigger State	このフィールドには、トリガーの状態として、[In Service]、[Out of Service]、または [Unknown] のいずれが表示されます。
Application Name	このフィールドには、トリガーに関連付けられた Unified CCX アプリケーションの名前が表示されます。
Ready for Call	このフィールドには、トリガーがコールを受け付ける準備が整っているかどうかが表示されます。
CallControlGroup ID	このフィールドには、トリガーに関連付けられたコール制御グループの ID が表示されます。
Media Group ID	このフィールドには、トリガーに関連付けられたメディア グループの ID が表示されます。
Last State Change Time	このフィールドには、トリガーの状態が最後に変更された時刻が表示されます。
Recommended Action	このフィールドには、トリガーの状態が、[Out of Service]、または [Unknown] である理由が表示され、トリガー状態を [In Service] に戻すための推奨処置が表示されます。 (注) このフィールドは、トリガーが [Out of Service] 状態、または [Unknown] 状態の場合にのみ表示されます。

[Call Control Groups] ページ

[Call Control Groups] ページには、Unified CCX に設定されている現在のコール制御グループに関する次の情報が表示されます。

表 5 : [Call Control Groups] ページのオプション

カウンタ	説明
CallControlGroup ID	このフィールドには、コール制御グループに関連付けられた ID が表示されます。
Group State	このフィールドには、コール制御グループの状態として、[In Service]、[Partial Service]、または [Out of Service] のいずれかが表示されます。
Total Ports	このフィールドには、コール制御グループ用に設定された CTI ポートの合計数が表示されます。
InService Ports	このフィールドには、インサービスの CTI ポートの数が表示されます。

カウンタ	説明
OOS Ports	このフィールドには、アウトオブサービスの CTI ポートの数が表示されます。

[CTI Ports] ページ

[CTI Ports] ページには、Unified CCX に設定されている現在の CTI ポートについての次の情報が表示されます。

表 6 : [CTI Ports] ページのオプション

カウンタ	説明
CTI Port DN	このフィールドには、CTI ポートのディレクトリ番号が表示されます。
CallControlGroup ID	このフィールドには、CTI ポートが所属するコール制御グループの ID が表示されます。
Port State	このフィールドには、[In Service] または [Out of Service] の CTI ポートの状態が表示されます。
CallID	このフィールドには、ポートの状態が [Out of Service] に変化する前の CTI ポートで使用可能な最後のコールのコール ID が表示されます。 (注) このフィールドは、ポートの状態が [Out of Service] の場合のみに自動的に入力されます。
Last State Change Time	このフィールドには、CTI ポートの状態が変化した最後の時刻が表示されます。

[Summary] ページ

[Summary] ページには次の情報が表示されます。

表 7 : [Summary] ページのオプション

カウンタ	説明
Overall Telephony Subsystem State	このフィールドには、Unified CCX テレフォニー サブシステムの状態として、[In Service]、[Partial Service]、または [Out of Service] のいずれかが表示されます。
Call Control Groups In Service	このフィールドには、インサービスのコール制御グループの数が表示されます。

カウンタ	説明
Call Control Groups Out Of Service	このフィールドには、アウトオブサービスのコール制御グループの数が表示されます。
Call Control Groups In Partial Service	このフィールドには、一部インサービスのコール制御グループの数が表示されます。
Enabled Triggers	このフィールドには、有効なコール制御グループ ID に関連付けられているトリガーの数が表示されます。
Disabled Triggers	このフィールドには、無効なコール制御グループ ID に関連付けられているトリガーの数が表示されます。
Triggers With Config Errors	このフィールドは、設定エラーがあるトリガーの数が表示されます。

Cisco Unified Analysis Manager

トラブルシューティング操作を実行するには、Unified RTMT に含まれているツールの Cisco Unified Analysis Manager を使用します。また Unified Analysis Manager を使用すると、ツールに追加されたデバイスのさまざまな側面を監視することができます。Unified Analysis Manager は、システムからトラブルシューティング情報を収集し、その情報を分析するために使用されます。システム内にあるサポート対象の Unified Communications (UC) 製品とアプリケーションを特定し、これらの UC アプリケーションのコール障害をトラブルシューティングし、トレース ファイルやログ ファイル、他のプラットフォームの情報や設定情報を収集します。この情報を使用して、自分自身でトラブルシューティングを実行したり、その情報を分析のために Cisco Technical Assistance に送信したりできます。

Unified CCX 用の Unified Analysis Manager

Unified Analysis Manager を使用して Unified CCX ベースのソリューションを監視し、トラブルシューティングするには、Unified Communications Manager サーバに接続し、Unified CCX ノードを必要に応じて追加する必要があります。監視用の次のノードまたはサーバを追加できます。

- Unified CCX ノード
- コール レコード サーバ

監視用ノードまたはサーバを追加する場合は、次の点を考慮してください。

- ノードまたはサーバを追加するには、[Node Type] として [Unified CCX] を選択します。
- コール レコード サーバを追加するには、[JDBC User Name] フィールドに **uccxsct** を入力します。

これらの操作の詳細な手順については、次の URL で入手可能な『*Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide*』の「Cisco Unified Analysis Manager preferences」の項を参照してください。

http://www.cisco.com/en/us/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html



第 3 章

バックアップと復元

シスコのディザスタリカバリシステム（Cisco DRS）は、Cisco Unified Contact Center Express Administration からアクセスでき、Cisco Unified Contact Center Express（Unified CCX）クラスタ内のすべてのサーバにデータバックアップと復元の完全な機能を提供します。Cisco DRS を使用すると、データのバックアップおよび復元を定期的に自動で実行したり、システム障害の発生時にユーザが呼び出すことで実行したりできます。

Cisco DRS にアクセスするには、[Cisco Unified CCX Administration] ウィンドウの右上の隅にあるナビゲーションドロップダウンリストから [Disaster Recovery System] を選択します。プラットフォーム管理者のクレデンシャルを使用して、ディザスタリカバリシステムにログインします。

Cisco DRS は次のコンポーネントをバックアップし、復元します。

- データリポジトリのクラスタ設定およびアプリケーションプロファイル
- データリポジトリにすでにアップロードされているワークフロースクリプト
- プラットフォーム
- データベース（db_cra、db_cra_repository、FCRasSvr データベースなど）
- 設定データ（Open LDAP、フラットファイルなど）
- 録音ファイル
- JTAPI 設定（jtapi.ini）
- トレース収集ツール（TCT）
- ユーザプロンプト、文法、ドキュメント
- CUIC_CONFIG 設定（コンフィギュレーションプロパティファイル、セキュリティ設定、Unified Intelligence Center Tomcat server.xml など）
- Finesse コンポーネント
- Socket.IO サーバのコンフィギュレーションファイル

ハイアベイラビリティ (HA) の場合、Cisco DRS は、クラスタ レベルのバックアップを実行します。つまり、UnifiedCCX クラスタ内のすべてのサーバのバックアップを中央の位置に収集し、バックアップ データをリモートの SFTP サーバにアーカイブします。

DRS は、それ自体の設定をバックアップし復元します。具体的には、drfDevice.xml ファイルに保存されているデバイス設定や、drfSchedule.xml ファイルに保存されているスケジューリング設定をプラットフォームのコンポーネントの一部としてバックアップします。サーバがこれらのファイルで復元されたら、DRS バックアップ デバイスおよびスケジューリングを再設定する必要はありません。



(注) Cisco DRS は、マスター エージェントとローカル エージェントとの間で SSL ベースの通信を使用して Unified CCX パブリッシュャとサブスクリバノード間の認証とデータの暗号化を行います。公開キー/秘密キーの暗号化には、DRS は IPsec 証明書を使用します。[Certificate Management] ページから IPsec 信頼ストア (hostname.pem) ファイルを削除すると、Cisco DRS が想定どおりに機能しなくなることに注意してください。IPsec 信頼ファイルを手動で削除する場合は、IPsec 証明書を IPsec 信頼に必ずアップロードしてください。詳細については、次の URL にある『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の証明書の管理に関するヘルプ ページを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

- [重要な考慮事項, 34 ページ](#)
- [SFTP の要件, 35 ページ](#)
- [マスター エージェントとローカル エージェント, 36 ページ](#)
- [バックアップ タスク, 37 ページ](#)
- [復元シナリオ, 39 ページ](#)
- [トレース ファイル, 46 ページ](#)
- [コマンドライン インターフェイス, 46 ページ](#)
- [アラーム, 47 ページ](#)

重要な考慮事項

次に、バックアップと復元の手順を実行する場合に重要な考慮事項を示します。

- バックアップまたは復元を実行する前に、クラスタ内の両方のノードが Unified CCX と同じバージョンを実行していることを確認します。異なるノードが異なるバージョンの Unified CCX を実行している場合は、証明書が不一致となり、バックアップまたは復元は失敗します。

- Unified CCX を復元する前に、ホスト名、IP アドレス、DNS 設定、バージョン、および配置タイプが、復元するバックアップ ファイルのホスト名、IP アドレス、DNS 設定、バージョン、および展開タイプに一致することを確認します。
- Unified CCX を復元する前に、サーバにインストールされている Unified CCX バージョンが復元するバックアップ ファイルのバージョンに一致することを確認します。Cisco DRS は、一致する Unified CCX バージョンの復元のみをサポートします。たとえば、Cisco DRS では、バージョン 8.5(1).1000-1 からバージョン 9.0(1).1000-1 への復元や、バージョン 8.5(2).1000-1 からバージョン 9.0(1).1000-2 への復元は行えません。
- コール処理が中断してサービスに影響が及ばないように、バックアップはオフピーク時間中にスケジューリングしてください。

SFTP の要件

ネットワーク上のリモートデバイスにデータをバックアップするには、バックアップを実行するように設定済みで Unified CCX ノードからアクセスできる SFTP サーバが必要です。任意の SFTP サーバ製品を使用できますが、Interoperability Verification Testing (IVT) プロセスを介してシスコで認定される SFTP 製品を推奨します。GlobalSCAPE などの Cisco Developer Network (CDN) のパートナーは、Unified CCX の指定したバージョンのこれらの製品を認定しています。Unified CCX のお使いのバージョンの製品を認定しているベンダーに関する情報については、次の URL を参照してください。

<https://marketplace.cisco.com/catalog>

サポートされている Cisco Unified Communications バージョンで GlobalSCAPE を使用方法の詳細については、次の URL を参照してください。

<http://www.globalscape.com/gsftps/cisco.aspx>

シスコでは社内テストに次のサーバを使用しています。いずれかのサーバを使用できますが、サポートについては各ベンダーにお問い合わせください。

- Open SSH (<http://sshtwindows.sourceforge.net/> を参照)
- Cygwin (<http://www.cygwin.com/> を参照)
- Titan (<http://www.titanftp.com/> を参照)

シスコは 1 GB のファイルサイズの制限があるため、SFTP 製品 freeFTPD の使用をサポートしていません。



(注)

- IVTプロセスでまだ認定されていないサードパーティ製品で問題が発生した場合、サポートについてはそのサードパーティベンダーに問い合わせてください。
- バックアップまたは復元の実行中、Cisco DRS はすべての OS 管理要求をブロックするため、オペレーティングシステム (OS) の管理タスクを実行できません。ただし、CLI コマンドを使用して、システムをバックアップまたは復元できます。

マスターエージェントとローカルエージェント

システムはクラスタの各ノードでマスターエージェントサービスを自動的に起動しますが、最初のノードでのみ機能できます。Unified CCX クラスタのサーバは両方とも、バックアップおよび復元の機能を実行するローカルエージェントを実行させておく必要があります。



(注)

デフォルトでは、ローカルエージェントはクラスタの各ノードで自動的にアクティブになります。

マスターエージェントの役割

マスターエージェント (MA) は、次の役割を果たします。

- システム全体のコンポーネントの登録情報を保存します。
- スケジュールされた一連のタスクを XML ファイルに保持します。MA は、ユーザインターフェイスからスケジュール更新情報を受け取ると、このファイルを更新します。MA は、スケジュールに従って実行可能タスクを該当するローカルエージェントに送信します。ローカルエージェントは、遅滞なくただちにバックアップタスクを実行します。
- バックアップデバイスの設定、新しいバックアップスケジュールの追加によるバックアップのスケジュール、既存スケジュールの表示または更新、実行済みスケジュールのステータスの表示、システム復旧の実行などのアクティビティを実行できます。
- リモートネットワーク上の場所にバックアップデータを保存します。

ローカルエージェントの役割

Unified CCX クラスタでは、ローカルエージェントがクラスタ内の各ノードでバックアップおよび復元のスクリプトを実行します。



- (注) Cisco DRS は、マスター エージェントとローカル エージェントとの間で SSL ベースの通信を使用して Unified CCX パブリッシャとサブスクリバノード間の認証とデータの暗号化を行います。Cisco DRS は、公開キーと秘密キーの暗号化に IPSec 証明書を使用します。この証明書交換は内部で処理されます。この交換のために設定に変更を加える必要はありません。

バックアップタスク

Cisco DRS を使用して、次のバックアップタスクを実行できます。

- バックアップ デバイスの管理
- バックアップ スケジュールの作成
- バックアップ スケジュールの管理
- バックアップ tar ファイルのサイズの予測
- 手動バックアップの実行
- バックアップ ステータスの確認
- 最後の 20 個のバックアップの履歴の表示

バックアップ デバイスの管理

Cisco DRS を使用する前に、バックアップ ファイルを保存する場所を設定する必要があります。最大で 10 個のバックアップ デバイスを設定できます。バックアップ デバイスを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [Disaster Recovery System] ページで、[Backup] > [Backup Device] を選択します。
- ステップ 2** 新しいデバイスを追加または既存のバックアップ デバイスの設定を編集するには、該当するボタンをクリックします。
- ステップ 3** バックアップ デバイス名を入力し、バックアップ デバイスのタイプを選択します。
(注) バックアップ スケジュールにバックアップ デバイスとして設定されているバックアップ デバイスは削除できません。

バックアップスケジュールの管理

最大で 10 個のバックアップ スケジュールを作成できます。各バックアップ スケジュールには、自動バックアップのスケジュールや保存場所など、独自の一連のプロパティがあります。



注意

コール処理が中断してサービスに影響が及ばないように、バックアップはオフピーク時間中にスケジュールしてください。

手順

- ステップ 1** [Disaster Recovery System] ページで、[Backup] > [Scheduler] を選択します。
- ステップ 2** 新しいスケジュールを追加する、または既存のバックアップ スケジュールの設定を編集するには、該当するボタンをクリックします。
- ステップ 3** フォームに記入し、バックアップ スケジュールを有効にします。
- (注)
- 2 ノード展開でバックアップをスケジュールする場合は、クラスタ内のサーバが両方とも Unified CCX の同じバージョンを実行し、ネットワークで通信していることを確認します。スケジュールバックアップの時刻にサーバが通信していないと、そのサーバはバックアップされません。
 - データベース統計情報更新タスクの実行時間帯にバックアップをスケジューリングすることは避けてください。デフォルトでは、このタスクは毎日午前 2 時に実行するように設定されます。

手動バックアップの実行

手順

- ステップ 1** [Disaster Recovery System] ページで、[Backup] > [Manual Backup] を選択します。
- ステップ 2** バックアップ デバイスを選択し、バックアップを開始します。
- ステップ 3** バックアップ ファイルが SFTP サーバで消費するディスク容量の概算サイズを表示するには、[Estimate Size] をクリックします。仮想マシンのバックアップタスクを実行するには、次の URL で入手可能な『Unified Communications VMware Requirements docwiki』を参照してください。
- http://docwiki.cisco.com/wiki/Unified_Communications_VMWare_Requirements#Copy_Virtual_Machine

バックアップステータスの確認

[Disaster Recovery System] ページで、[Backup] > [Current Status] を選択し、バックアップステータスを確認します。



注意

リモートサーバへのバックアップが 20 時間以内に完了しないと、バックアップセッションがタイムアウトします。その場合は、新規バックアップを開始する必要があります。

復元シナリオ

クラスタ内のノードは復元することができます。



(注)

- Unified CCX ノード間にバージョンの不一致がある場合は、復元を実行しないでください。
- 使用可能なバックアップがない場合は、Cisco DRS を使用して、どのノードでも復元アクティビティが実行できないことがあります。
- 再構築せずに復元を実行した場合は、両方のノードを復元する必要があります。
- [One-Step Restore] オプションは Unified CCX でサポートされません。



注意

- バックアップ .tar ファイルはランダムに生成されるパスワードで暗号化されるということに注意してください。Unified CCX は、このパスワードを暗号化してバックアップ .tar ファイルとともに保存するために、クラスタセキュリティパスワードを使用します。バックアップと復元でこのセキュリティパスワードを変更した場合、Cisco DRS は古いセキュリティパスワードの入力を求めます。このため、古いバックアップを使用するには、古いセキュリティパスワードを記憶しておくか、パスワードをリセットまたは変更したらずちに新規バックアップを実行することを奨励します。
- Cisco DRS は、一致する Unified CCX バージョンのみをサポートします。たとえば、Cisco DRS では、バージョン 8.5(1).1000-1 からバージョン 9.0(1).1000-1 への復元や、バージョン 8.5(1).1000-2 からバージョン 9.0(1).1000-1 への復元は行えません。（バージョン番号の最後の数字はサービスリリースまたはエンジニアリングスペシャルをインストールすると変化します）。Cisco DRS で Unified CCX データベースの復元を正常に完了するには、製品バージョンがエンドツーエンドで一致する必要があります。
- ノードを復元した後、ノードをリブートし、[Cisco Unified CCX Administration] の Web インターフェイスにログインして、データの再同期を手動で実行します。
- バックアッププロセスは、Wallboard と Recording SFTP の外部データベースユーザに設定するパスワードをバックアップしません。データが復元されると、パスワードは元のデフォルト値に戻ります。外部データベースユーザに対してパスワードを設定する場合は、[Password Management] ウィンドウから手動で設定をリセットする必要があります。

SA または HA 設定の復元（再構築なし）

いずれのノードにも Unified CCX を再インストールせずに、最後の既知の正常な設定に、Unified CCX の SA または HA 設定を復元する場合は、次の手順を実行します。ハードドライブの障害やその他のハードウェア障害の後にこの手順を実行しないでください。



(注)

クラスタを復元する前に、クラスタ内の 2 番目のノードが機能しており、最初のノードと通信していることを確認します。2 番目のノードが最初のノードと通信しているかどうかを確認するには、CLI コマンドの **utils network connectivity** を実行します。

復元時に機能していない、または最初のノードと通信していない場合は、2 番目のノードの新規インストールを実行します。



注意

HA 設定で SA バックアップの復元操作を実行しないでください。実行すると、クラスタで障害が発生し、2 番目のノードが孤立します。

手順

-
- ステップ 1** [Disaster Recovery System] ページで [Restore] > [Restore Wizard] を選択します。復元プロセスを完了するためのウィザード画面の指示に従います。復元実行中に単一ノードまたは両方のノードを選択できます。
- （注） ノードを復元すると Unified CCX データベース全体が復元されます。復元対象のデータベースのサイズによっては、これに数時間かかる場合があります。
- ステップ 2** 復元が成功し、ステータスが 100 パーセントになったら、SA サーバまたは HA クラスタを再起動します。再起動の詳細については、次の URL で入手可能な『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』を参照してください。 http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/prod_maintenance_guides_list.html
- ステップ 3** SA サーバまたは HA クラスタの再起動後に [Cisco Unified CCX Administration] の Web インターフェイスから [Subsystems] > [Cisco Unified CM Telephony] > [Data Resync] を選択し、データの再同期を実行します。
-

SA 設定の復元（再構築あり）

次の場合に SA 設定を復元できます（再構築あり）。

- ハードドライブに障害が発生し、ハードドライブ障害が発生する前に行った有効なバックアップがある。
- サーバハードウェアを交換する必要がある。交換する古いサーバハードウェアで実行しているときに Unified CCX のバックアップを行います。Unified CCX の設定をシャットダウンする前にバックアップ デバイスの詳細を書き留めます。
- アライメントされていないパーティションがある仮想マシンを修正するには、手動バックアップを最初に実行し、[Unified Contact Center Express 仮想マシン テンプレート](#) から最新の OVF テンプレートを使用して新規インストールを実行し、手順に従う必要があります。



ヒント

ネットワーク カードの交換やメモリの増設など他のハードウェア アップグレードでは、次の手順を実行する必要はありません。

手順

-
- ステップ 1** 復元する前に、ノードで（以前に使用したのと同じ管理者クレデンシヤル、ネットワーク設定、およびセキュリティ パスワードを使用して）同じバージョンの Unified CCX を新規インストールします。
- ステップ 2** [Disaster Recovery System] ページで [Restore] > [Restore Wizard] を選択します。復元プロセスを完了するためのウィザード画面の指示に従います。
- （注）
- 再構築を行う復元の場合は、[Unified CCX Administration] ページで初期設定を実行する必要はありません。
 - 現在のライセンス パッケージを表示するには、[System] > [Licensing] > [Display License] の順に移動します。
- ステップ 3** 復元が成功したらサーバを再起動し、[Unified CCX Administration] ページを使用してデータの再同期を手動で実行します。
- （注）
- バックアップが復元用に取得されたノードに同じライセンス タイプを適用します。
 - ライセンス MAC が再構築中に変更された場合、UCCX ライセンスを再ホストする必要があります。復元プロセスが完了した後で新しいライセンスを適用する場合は、復元されたバックアップに含まれるライセンスと同じパッケージ（Standard、Enhanced、Premium、IP IVR）を使用して、再ホストライセンスを適用します。

ライセンスの再ホストメカニズムの詳細については、次の URL で入手可能な『Cisco Unified Contact Center Express Installation and Upgrade Guide』を参照してください。 http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/prod_installation_guides_list.html

HA 設定の最初のノードのみの復元（再構築あり）

ハイアベイラビリティ（HA）設定で、ハードドライブ障害、または最初のノードの再構築が必要な、その他の重要なハードウェア障害またはソフトウェア障害がある場合は、次の手順を実行し、パブリッシャ ノードをそれが最期にバックアップされた状態にまでリカバリします。

手順

-
- ステップ 1** 復元する前に、ノードで（以前に使用したのと同じ管理者クレデンシヤル、ネットワーク設定、およびセキュリティ パスワードを使用して）同じバージョンの Unified CCX を新規インストールします。
- ステップ 2** [Disaster Recovery System] Web インターフェイスで、[Restore] > [Restore Wizard] を選択します。復元プロセスを完了するためのウィザード画面の指示に従います。

- (注)
- 復元するノードを選択するよう求めるメッセージが表示されたら、最初のノードを選択します。
 - パブリッシャ ノードですでに実行されたバックアップを使用して復元するか、サブスライバ ノードから最新のデータを取得します。
 - 現在のライセンス パッケージを表示するには、[System] > [Licensing] > [Display License] の順に移動します。

ステップ 3 復元プロセスが成功した後、2 番目のノードから次の CLI コマンドを実行します。
`utils uccx setuppubrestore`

ステップ 4 ノードデータを取得する方法は次のとおりです。

- a) 2 番目のノードで次の CLI コマンドを実行し、パブリッシャ ノードのデータを取得します。
`utils uccx database forcedatasync`
- b) 手順 3 を実行した後で、2 番目のノードのデータを取得するとき（2 番目のノードのデータが最新の場合）は、パブリッシャ ノードで、次の CLI コマンドを実行します。
`utils uccx database forcedatasync`

注意 このコマンドは、サブスライバから Cisco Finesse 固有のデータを取得しません。Cisco Finesse のデータは、バックアップ ファイルからのみ取得できます。バックアップされていない最新の Finesse 設定データは、Cisco Finesse の管理コンソールで手動で入力する必要があります。

ステップ 5 両方のノードを再起動して、パブリッシャ ノードで次の CLI コマンドを実行し、レプリケーションを設定します。
`utils uccx dbreplication reset`

ステップ 6 Cisco Finesse データベースの複製をセットアップするには、以下を行います。

- a) サブスライバ ノードで、次の CLI コマンドを実行します。
`utils dbreplication stop`
- b) パブリッシャ ノードで次の CLI コマンドを実行します。
`utils dbreplication reset all`

注意

- バックアップが復元用に取得されたノードに同じライセンス タイプを適用します。
- ライセンス MAC が再構築中に変更された場合、UCCX ライセンスを再ホストする必要があります。復元プロセスが完了した後で新しいライセンスを適用する場合は、復元されたバックアップに含まれるライセンスと同じパッケージ（Standard、Enhanced、Premium、IP IVR）を使用して、再ホストライセンスを適用します。

ライセンスの再ホストメカニズムの詳細については、次の URL で入手可能な『Cisco Unified Contact Center Express Installation and Upgrade Guide』を参照してください。http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/prod_installation_guides_list.html

HA 設定での 2 番目のノードの復元（再構築あり）



注意 2 番目のノードがクラッシュし、使用可能なバックアップがない場合は、何も復元できないことがあります。ただし、2 番目のノードをリカバリするには、2 番目のノードを最初のノードから削除し、2 番目のノードの詳細を再度追加し、次に 2 番目のノードを再構築します。サーバにあった記録およびモニタリングデータは、バックアップがないためリカバリできません。

ハイアベイラビリティ（HA）設定で、ハードドライブ障害、または 2 番目のノードの再構築が必要な、その他の重要なハードウェア障害またはソフトウェア障害がある場合は、次の手順を実行し、2 番目のノードの最後のバックアップ状態に 2 番目のノードをリカバリします。

手順

- ステップ 1** 復元する前に、ノードで（以前に使用したのと同じ管理者クレデンシャル、ネットワーク設定、およびセキュリティパスワードを使用して）同じバージョンの Unified CCX を新規インストールします。
- ステップ 2** [Disaster Recovery System] Web インターフェイスで、[Restore] > [Restore Wizard] を選択します。復元プロセスを完了するためのウィザード画面の指示に従います。
(注) 復元するノードの選択を求められたら、2 番目のノードのみを選択します。
- ステップ 3** 復元ステータスが 100 パーセントになったら、サーバを再起動します。再起動の詳細については、次の URL で入手可能な『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』を参照してください。http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/prod_maintenance_guides_list.html

HA 設定での両方のノードの復元（再構築あり）

ハイアベイラビリティ（HA）の設定ではクラスタ内の両方のノードの主要なハードドライブで障害が発生した場合、あるいはハードドライブの移行または交換の場合、両方のノードの再構築が必要なことがあります。

- ハードドライブ障害の場合、その障害の前に有効なバックアップを行っていたときは、次の手順に従って最初のノードから順に、両方のノードを復元します。
- サーバハードウェアを交換する場合は、交換する古いサーバハードウェア上で実行しているときに Unified CCX をバックアップします。Unified CCX の設定をダウンする前にバックアップデバイスの詳細を書き留めます。この手順に従って、新しいサーバを起動します。
- アライメントされていないパーティションがある仮想マシンを修正するには、最初に手動バックアップを実行してから、[Unified Contact Center Express 仮想マシン テンプレート](#)から最

新の OVF テンプレートを使用して新規インストールを実行して、最初のノードから両方のノードを復元する必要があります。



注意

最初のノードに有効なバックアップがない場合は、新しいクラスタを設定します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Contact Center Express の同じバージョンの新規インストールを（障害が発生する前に使用していた同じ管理者クレデンシヤル、ネットワーク設定、セキュリティパスワードを使用して）実行して最初のノードを再構築します。
- Cisco Unified Contact Center Express のインストールの詳細については、次の URL で入手可能な『Cisco Unified Contact Center Express Installation and Upgrade Guide』を参照してください。 http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/prod_installation_guides_list.html
- ステップ 2** HA 設定の最初のノードのみの復元（再構築あり）、（42 ページ）の手順に従って、最初のノードだけを復元します。
- （注） 現在のライセンス パッケージを表示するには、[System]>[Licensing]>[Display License]の順に移動します。
- ステップ 3** 最初のノードを再起動します。
- 再起動の詳細については、次の URL で入手可能な『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』を参照してください。 http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/prod_maintenance_guides_list.html
- 注意
- バックアップが復元に取得されたノードに同じライセンス タイプを適用します。最初のノードにのみ適用する必要があります。
 - ライセンス MAC が再構築中に変更された場合、UCCX ライセンスを再ホストする必要があります。復元プロセスが完了した後で新しいライセンスを適用する場合は、復元されたバックアップに含まれるライセンスと同じパッケージ（Standard、Enhanced、Premium、IPIVR）を使用して、再ホストライセンスを適用します。ライセンスの再ホストメカニズムの詳細については、次の URL で入手可能な『Installing Cisco Unified Contact Center Express』を参照してください。 http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/prod_installation_guides_list.html
- ステップ 4** Cisco Unified Contact Center Express の同じバージョンの新規インストールを（障害が発生する前に使用していた同じ管理者クレデンシヤル、ネットワーク設定、セキュリティパスワードを使用して）実行して 2 番目のノードを再構築します。
- ステップ 5** HA 設定での 2 番目のノードの復元（再構築あり）、（44 ページ）の手順に従って、2 番目のノードだけを復元します。
- ステップ 6** 2 番目のノードを再起動します。クラスタ内の両方のノードでデータが復元されます。

トレース ファイル

マスターエージェント、ユーザインターフェイス、各ローカルエージェント、JSch (Javaセキュアチャネル) ライブラリのトレース ファイルは次の場所にあります。

- マスター エージェントの場合、トレース ファイルは `platform/drf/trace/drMA0*` にあります。
- 各ローカルエージェントの場合、トレース ファイルは `platform/drf/trace/drfLA0*` にあります。
- ユーザ インターフェイスの場合、トレース ファイルは `platform/drf/trace/drfConfLib0*` にあります。
- JSch の場合、トレース ファイルは `platforms/drf/trace/drfJSch*` にあります。

トレースファイルを表示するには、コマンドラインインターフェイスを使用します。詳細については、[コマンドラインインターフェイス](#)、(46 ページ) を参照してください。

コマンドラインインターフェイス

Cisco DRS では、次の表に示すように、いくつかのバックアップおよび復元タスクにコマンドラインからアクセスできます。

表 8: ディザスタリカバリ システムのコマンドラインインターフェイス コマンド

コマンド	説明
<code>utils disaster_recovery backup</code>	Cisco DRS インターフェイスに設定されている機能を使用して手動バックアップを開始します。
<code>utils disaster_recovery restore</code>	復元を開始します。復元するバックアップの場所、ファイル名、機能、およびノードを指定するためのパラメータが必要です。
<code>utils disaster_recovery status</code>	進行中のバックアップ ジョブまたは復元ジョブのステータスを表示します。
<code>utils disaster_recovery history</code>	以前のバックアップおよび復元操作の履歴を表示します。
<code>utils disaster_recovery show_backupfiles</code>	既存のバックアップ ファイルを表示します。
<code>utils disaster_recovery cancel_backup</code>	進行中のバックアップ ジョブをキャンセルします。
<code>utils disaster_recovery show_registration</code>	現在設定されている登録を表示します。
<code>utils disaster_recovery show_tapeid</code>	テープ識別情報を表示します。

コマンド	説明
utils disaster_recovery device add	ネットワーク デバイスまたはテープ デバイスを追加します。
utils disaster_recovery device delete	デバイスを削除します。
utils disaster_recovery device list	すべてのデバイスを一覧表示します。
utils disaster_recovery schedule add	スケジュールを追加します。
utils disaster_recovery schedule delete	スケジュールを削除します。
utils disaster_recovery schedule disable	スケジュールを無効にします。
utils disaster_recovery schedule enable	スケジュールを有効にします。
utils disaster_recovery schedule list	すべてのスケジュールを一覧表示します。

アラーム

Cisco DRS (DRF) は、バックアップまたは復元手順の実行時に発生する可能性があるエラーのアラームを表示します。次の表に、Cisco DRS のアラームを一覧表示します。

表 9: ディザスタ リカバリ システムのアラーム

アラーム名	説明
DRFBackupDeviceError	Cisco DRS バックアッププロセスでデバイスへのアクセス中にエラーが発生しました。
DRFBackupFailure	Cisco DRS バックアップ プロセスでエラーが発生しました。
DRFBackupInProgress	Cisco DRS は、別のバックアップの実行中は新規バックアップを開始できません。
DRFInternalProcessFailure	Cisco DRS 内部プロセスでエラーが発生しました。
DRFLA2MAFailure	Cisco DRS ローカル エージェントが、マスター エージェントに接続できません。
DRFLocalAgentStartFailure	Cisco DRS ローカル エージェントがダウンしている可能性があります。

アラーム名	説明
DRFMA2LAFailure	Cisco DRS マスター エージェントがローカル エージェントに接続できません。
DRFMABackupComponentFailure	Cisco DRS はコンポーネントがそれ自体のデータをバックアップするように要求しましたが、バックアッププロセス中にエラーが発生し、コンポーネントのバックアップが失敗しました。
DRFMABackupNodeDisconnect	Cisco DRS マスター エージェントが Unified CCX ノードでバックアップ操作を実行しているときに、そのノードはバックアップ操作が完了する前に切断されました。
DRFMARestoreComponentFailure	Cisco DRS は、コンポーネントがそれ自体のデータを復元するように要求しましたが、復元プロセス中にエラーが発生し、コンポーネントは復元されませんでした。
DRFMARestoreNodeDisconnect	Cisco DRS マスター エージェントが Unified CCX ノードで復元操作を実行しているときに、そのノードは復元操作が完了する前に切断されました。
DRFMasterAgentStartFailure	Cisco DRS マスター エージェントがダウンしている可能性があります。
DRFNoRegisteredComponent	使用可能な登録済みコンポーネントがないため、Cisco DRS バックアップが失敗しました。
DRFNoRegisteredFeature	バックアップする機能が選択されませんでした。
DRFRestoreDeviceError	Cisco DRS 復元プロセスは、デバイスから読み取ることができません。
DRFRestoreFailure	Cisco DRS 復元プロセスでエラーが発生しました。
DRFSftpFailure	Cisco DRS SFTP 操作でエラーが発生しています。
DRFSecurityViolation	DRF ネットワーク メッセージには、コードインジェクションやディレクトリトラバーサルなど、セキュリティ違反となる可能性がある悪意のあるパターンが含まれています。DRF ネットワーク メッセージがブロックされています。
DRFTruststoreMissing	ノードで IPsec 信頼ストアが見つかりません。DRF ローカル エージェントが、マスター エージェントに接続できません。

アラーム名	説明
DRFUnknownClient	最初のノードの DRF マスター エージェントが、クラスタ外の不明なサーバからクライアント接続要求を受信しました。その要求が拒否されました。
DRFLocalDeviceError	DRF は、ローカル デバイスにアクセスできません。
DRFBackupCompleted	DRF は正常にバックアップされました。
DRFRestoreCompleted	DRF は正常に復元されました。
DRFNoBackupTaken	アップグレード、移行または新規インストール後に、現在のシステムの有効なバックアップが見つかりませんでした。



付録

A

コマンドラインインターフェイス

Unified CCX では、システムを設定し、トラブルシューティングするために Web 管理ページの代わりとしてコマンドラインインターフェイスを提供しています。

- [コマンドラインインターフェイスの概要, 51 ページ](#)
- [show コマンド, 55 ページ](#)
- [set コマンド, 74 ページ](#)
- [run コマンド, 81 ページ](#)
- [utils コマンド, 84 ページ](#)
- [file コマンド, 101 ページ](#)
- [ハイアベイラビリティ コマンド, 106 ページ](#)
- [Cisco Finesse のコマンド, 115 ページ](#)
- [Cisco Unified Intelligence Center のコマンド, 116 ページ](#)

コマンドラインインターフェイスの概要

CLI セッションの開始

次の 2 つの方法のいずれかを使用して Cisco Unified Contact Center Express (Unified CCX) コマンドラインインターフェイス (CLI) にリモートまたはローカルでアクセスします。

- SSH 対応クライアントワークステーションから、SSH を使用して Unified CCX にセキュアに接続します。
- 直接、またはシリアルポートに接続されているターミナルサーバを使用して Unified CCX CLI にアクセスします。IP アドレスに問題がある場合は、この方法をご使用ください。

CLI セッションを開始するには、以下の手順を実行します。

手順

ステップ 1 次のいずれかの作業を実行します。

- リモートシステムの場合は、SSH を使用して Cisco CCX プラットフォームにセキュアに接続します。SSH クライアントで、次のように入力します。

```
ssh adminname@hostname
```

ここで、*adminname* は管理者 ID、*hostname* はインストール時に入力したホスト名です。

たとえば、**ssh admin@ccx-1** と入力します。

- 直接接続の場合は、次のプロンプトが自動的に表示されます。

```
ccx-1 login:
```

ここで、**ccx-1** はシステムのホスト名を表します。

管理者 ID を入力します。

いずれの場合にも、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

ステップ 2 パスワードを入力します。
CLI プロンプトが表示されます。プロンプトは、次のように管理者 ID で表示されます。

```
admin:
```

コマンドのヘルプの取得

すべてのコマンドで、次の 2 種類のヘルプを利用できます。

- コマンドの定義と、その使用例を含む詳細なヘルプ。
- コマンドの構文だけを含む短いクエリー ヘルプ。

詳細なヘルプを表示するには、CLI プロンプトで次のように入力します。

help command

ここで、*command* にはコマンド名かコマンドとパラメータを指定します。

詳細ヘルプの例

```
admin:help file list activelog activelog help: This will list active logging files options are: page - pause output detail - show detailed listing reverse - reverse sort order date - sort by date size - sort by size file-spec can contain '*' as wildcards
```



```
admin:file list activelog platform detail 02 Dec,2004 12:00:59 <dir> drf
02 Dec,2004 12:00:59 <dir> log 16 Nov,2004 21:45:43 8,557 enGui.log 27
Oct,2004 11:54:33 47,916 startup.log dir count = 2, file count = 2
```



- (注) オプションのパラメータとして特定のコマンドの名前を指定せずに **help** コマンドを入力すると、CLI システムに関する情報が表示されます。

コマンドの構文だけを表示するには、CLI プロンプトで次のように入力します。

command?

ここで、**command** はコマンド名かコマンドとパラメータを表します。

クエリーの例

```
admin:file list activelog?Syntax: file list activelog file-spec [options]
file-spec mandatory file to view options optional
page|detail|reverse|[date|size]
```



- (注) **?** を **set** などのメニュー コマンドの後に入力すると、**Tab** キーと同様に機能して、使用できるコマンドのリストが表示されます。

Ctrl+C キー シーケンスと Exit コマンド

Ctrl+C キー シーケンスを入力すると、ほとんどのインタラクティブ コマンドを停止できます。

```
admin:utils system upgrade initiate Warning: Do not close this window
without first exiting the upgrade command.Source: 1) Remote Filesystem
2) DVD/CD q) quit Please select an option (1 - 2 or "q"): Exiting upgrade
command.Please wait...Control-C pressed admin:
```



- (注) **utils system switch-version** コマンドを実行し、**Yes** を入力して処理を開始した場合、**Ctrl+C** を押すとコマンドは終了しますが、**switch-version** 処理は停止しません。

CLI セッションの終了

CLI セッションを終了するには、CLI プロンプトで **quit** と入力します。

リモートからログインしている場合は、ログオフされ、SSH セッションが切断されます。ローカルでログインしている場合は、ログオフされ、ログインプロンプトが表示されます。

その他の CLI コマンド

Unified CCX で使用できるコマンドのほかに、Unified Communications オペレーティング システムの一部として実行可能な、他のコマンドも使用できます。Cisco Unified Communications オペレーティング システムで使用可能なすべての CLI コマンドの詳細については、次の URL にある『*Command Line Interface Reference Guide*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

次の Unified Communications オペレーティング システム コマンドは、Unified CCX には使用できません。

- delete dscp
- file delete license
- file get license
- file list license
- file view license
- set cert bulk
- set dscp
- set network cluster publisher
- set network dhcp
- set network ipv6 dhcp
- set network ipv6 service
- set network ipv6 static_address
- show ctl
- show dscp
- show itl
- show network ipv6 settings
- show tech ccm_services is renamed to show tech uccx_services
- show uccx tech dbschemaversion
- run loadxml
- utils sso unavailable

show コマンド

show uccx version

このコマンドは、アクティブパーティションと非アクティブパーティションの Unified CCX バージョンを表示します。非アクティブなパーティションが利用可能な場合にのみ、非アクティブなバージョンが表示されます。

コマンド構文

show uccx version

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx version
Active UCCX Version: 10.5.0.95000-152
Inactive UCCX Version: NA
Command successful.
```

show uccx jtapi_client version

このコマンドは、UnifiedCCX がアクティブまたは非アクティブなパーティションで使用している JTAPI クライアント バージョンを表示します。非アクティブなパーティションが利用可能な場合にのみ、非アクティブなバージョンが表示されます。

コマンド構文

show uccx jtapi_client version

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx jtapi_client version
Active: Cisco JTAPI version 9.0(0.96000)-4 Release
Inactive: NA
Command successful.
```

show uccx components

このコマンドは、トレースを CLI コマンドでオンまたはオフにできる Unified CCX のさまざまなコンポーネントを表示します。このコマンドは、Unified CCX のトレース設定を変更するためにコンポーネントのリストが必要な場合に役立ちます。

コマンド構文

show uccx components

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx components
Various UCCX components are as follows -

UCCXEngine
UCCXCVD
UCCXEditor
JTAPI_CLIENT
UCCXAppAdmin
```

show uccx subcomponents

このコマンドは、指定した Unified CCX コンポーネントのさまざまなサブコンポーネントを表示します。このコマンドは、Unified CCX のトレース設定を変更するためにサブコンポーネントのリストが必要な場合に役立ちます。

コマンド構文

show uccx subcomponents *component* [options]

オプション

- **component** : (必須) UCCXEngine または UCCXEditor などのコンポーネント。次に、「UCCX_ENGINE」コンポーネントの UCCX サブコンポーネントの例を示します。
 - APP_MGR
 - ARCHIVE_MGR
 - BOOTSTRAP_MGR
 - CFG_MGR
 - CHANNEL_MGR など
- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx subcomponents uccxengine
```

show uccx license

このコマンドは、Unified CCX と、アクティブ化された機能に設定されるさまざまなライセンスを表示します。このコマンドは、Unified CCX Cluster View Daemon (CVD) が実行している場合にのみ機能します。



(注) このコマンドは、ライセンス有効期限情報を表示しません。ライセンスの表示に関する詳細情報については、『*Cisco Unified CCX Administration Guide*』を参照してください。

コマンド構文**show uccx license****要件**

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx license
Configured Licenses:

Package: Cisco Unified CCX Premium
IVR Port(s): 300
Cisco Unified CCX Premium Seat(s): 300
High Availability : Enabled
Cisco Unified CCX Preview Outbound Dialer: Enabled
Cisco Unified CCX Quality Manager Seat(s): 300
Cisco Unified CCX Advanced Quality Manager Seat(s): 300
Cisco Unified CCX Workforce Manager Seat(s): 300
Cisco Unified CCX Compliance Recording Seat(s): 300
Cisco Unified CCX Maximum Agents: 400
Cisco Unified CCX Licensed Outbound IVR Port(s): 150
Cisco Unified CCX Licensed Outbound Agent Seat(s): 150
For dynamic content like the Inbound ports In Use and Outbound IVR
Ports/Agent Seats In Use please check using the Cisco Unified CCX
Administration.

Command successful.
```

show uccx trace levels

このコマンドは、さまざまな Unified CCX コンポーネントおよびサブコンポーネントの名前とトレースレベルを表示します。オプションコンポーネントを指定した場合は、指定したコンポーネントのすべてのサブコンポーネントのトレース設定を表示します。オプションのコンポーネントとサブコンポーネントの両方を指定した場合は、指定したコンポーネントの指定したサブコンポーネントのトレース設定を表示します。

コマンド構文

show uccx trace levels [options]

オプション

- **Component** : このコンポーネントのすべてのサブコンポーネントのトレースレベルを表示します。
- **Sub-component** : 指定したコンポーネントのこのサブコンポーネントのトレースレベルを表示します。トレースレベルは、コンポーネントを指定した場合にのみ表示できます。
- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。
- **file** : コンソールに表示せずに、ファイルに出力を保存します。ファイル名はコマンドの完了後に表示されます。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx trace levels UCCXEngine SS_HTTP
Trace settings for component 'UCCX_ENGINE' and module 'SS_HTTP' are
ALARM = true
DEBUGGING = false
XDEBUGGING1 = false
XDEBUGGING2 = false
XDEBUGGING3 = false
XDEBUGGING4 = false
XDEBUGGING5 = false

Command successful.
```

show uccx provider ip axl

このコマンドは、Unified CCX AXL プロバイダーの IP アドレスを表示します。

コマンド構文

show uccx provider ip axl

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin: show uccx provider ip axl
Cisco Unified Communications Manager IP is 10.78.14.140

Command Successful.
```

show uccx provider ip jtapi

このコマンドは、Unified CCX JTAPI プロバイダーの IP アドレスを表示します。

コマンド構文**show uccx provider ip jtapi****要件**

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin: show uccx provider ip jtapi
UCCX JTAPI Provider is 10.78.14.140

Command Successful.
```

show uccx provider ip rmcm

このコマンドは、Unified CCX Resource Manager-Contact Manager プロバイダーの IP アドレスを表示します。

コマンド構文**show uccx provider ip rmcm****要件**

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin: show uccx provider ip rmc  
UCCX RMC Provider is 10.78.14.140  
  
Command Successful.
```

show uccx trace file size

このコマンドは、指定したコンポーネントのトレース ファイル サイズを表示します。

コマンド構文

show uccx trace file size [component]

オプション

component : (必須) UCCXEngine または UCCXEditor などのコンポーネント。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin: show uccx trace file size UCCXEngine  
Trace file size for UCCXEngine is 3000000 bytes.  
  
Command Successful.
```

show uccx trace file count

このコマンドは、指定したコンポーネントのトレース ファイル数を表示します。これは、トレース ファイルの最大数です。新しいファイルによって古いファイルが上書きされます。

コマンド構文

show uccx trace file count [component]

オプション

component : (必須) UCCXEngine または UCCXEditor などのコンポーネント。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin: show uccx trace file count UCCXEngine  
Trace file count for UCCXEngine is 300.
```



```
Command Successful.
```

show uccx tech dbserver all

このコマンドは、**show uccx tech dbserver log diagnostic** コマンドと **show uccx tech dbserver status** コマンドを連続して実行し、コマンドの出力をファイルに保存します。

コマンド構文

```
show uccx tech dbserver all
```



(注) 実行される各 **show uccx tech** コマンドの出力を含むファイルの名前は、コマンドスクリプトによって自動的に生成されます。ファイルパスとファイル名は、操作の完了後に表示されます。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx tech dbserver all
This operation may take a few minutes to complete.Please wait...

Output is in file: uccx/cli/DbServerAll_1250664874580.txt

Command successful.
```

show uccx tech dbserver log diagnostic

このコマンドは、Informix の `assertion-failure` ログおよび `shared-memory-dump` ログが存在しているかどうかを確認します。ログが存在している場合は、ログファイルの名前とパスが表示されます。

コマンド構文

```
show uccx tech dbserver log diagnostic [options]
```

オプション

page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx tech dbserver log diagnostic
This operation may take a few minutes to complete.Please wait...

The following diagnostic logs are available for the UC database server.
core/log.txt
core/gskit.log

Command successful.
```

show uccx tech dbserver status

このコマンドは、Unified CCX データベース サーバ (IDS エンジン) のインスタンスの詳細なステータス レポート **onstat -a** を txt ファイルに出力します。

コマンド構文

```
show uccx tech dbserver status
```



(注) ファイルの名前はコマンド スクリプトによって自動的に生成されます。ファイルパスとファイル名は、操作の完了後に表示されます。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx tech dbserver status
This operation may take a few minutes to complete.Please wait...

Output is in file: uccx/cli/DbServerStatus_1250666138379.txt

Command successful.
```

show uccx dbcontents

このコマンドは、指定したデータベースの内容をダンプします。このコマンドは、トラブルシューティング時にテスト システムでの顧客データベースの再作成に使用できます。Unified CCX データベース テーブルごとに、ダンプ csv ファイルが作成されます。ファイルが大量にあるため、これらのファイルは DbContents_<TIMESTAMP> という名前のサブディレクトリ内に作成されます。コマンドの完了後、サブディレクトリ名とサブディレクトリパスが表示されます。

コマンド構文

```
show uccx dbcontents database_name
```

引数

database_name : (必須) 内容を CSV ファイルに出力するデータベース

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:show uccx dbcontents db_cra
This operation may take a few minutes to complete.Please wait...
Database contents dump is in directory: uccx/cli/DbContents_1250666234370

Command successful.
```

show uccx dbtable schema

このコマンドは、指定したテーブルの列名を表示します。

コマンド構文

show uccx dbtable schema database_name table_name [options]

引数

database_name : (必須) テーブルが含まれているデータベースの名前 (db_cra、db_cra_repository など)

table_name : (必須) テーブルの名前

オプション

page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx dbtable schema db_cra_repository documentsfiletbl
List of columns in table 'documentsfiletbl' in database 'db_cra_repository'
is -
filename (nvarchar)
parentfolderid (nvarchar)
payload (blob)
lastmodifystamp (datetime year to fraction(3))
lastmodifyuser (nvarchar)
length (int)
checksum (int)
```

```
Command successful.
```

show uccx dbschema

このコマンドは、指定したデータベース内のすべてのテーブル、ビュー、およびストアドプロシージャのスキーマをテキストファイルに出力します。出力は、指定したデータベースを複製するために必要な SQL 文で構成されます。ファイルの作成に IDS 「dbschema」ユーティリティが使用されます。このコマンドは、DBスキーマのみを表示し、テーブル内のデータは表示しません。

コマンド構文

```
show uccx dbschema database_name
```

引数

database_name : (任意) スキーマが出力されるデータベースの名前。



(注) スキーマを含むファイルの名前はコマンドスクリプトによって自動的に生成されます。ファイルパスとファイル名は、操作の完了後に表示されます。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx dbschema db_cra
Output is in file: uccx/cli/schema_db_cra_080212-110543.txt
```

show uccx dbtable list

このコマンドは、指定した Unified CCX IDS データベースに含まれるすべてのテーブルの名前を表示します。データベース名は、db_cra、db_cra_repository、FCRasSvr、sysmaster です。

コマンド構文

```
show uccx dbtable list database_name [options]
```

引数

database_name : (必須) テーブルが存在するデータベースの名前。

オプション

page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0
 アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx dbtable list
db_craList of tables in database 'db_cra' is -
agentconnectiondetail
agentroutingsetting
agentstatedetail
application
areacode
campaign
campaigncsqmap
configlog
configschema
configschemacolumn
configseed
...
...
teamcsqmapping
workflowtask
Command successful.
```

show uccx dbserver disk

このコマンドは、各記憶域の情報（チャンクやDB領域）を表示します。

コマンド構文

show uccx dbserver disk [options]

オプション

page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

file : .txt ファイルに情報を出力します。ファイル名は実行時に動的に生成され、ファイル名とパスが操作完了後にユーザに表示されます。

要件

レベル特権 : 0
 コマンド特権レベル : 0
 アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx dbserver disk
SNO.DATABASE NAME          TOTAL SIZE (MB) USED SIZE (MB) FREE SIZE (MB)
PERCENT FREE
-----
1    rootdbs                358.4          66.3          292.1
    81%
2    log_dbs                 317.4          307.3          10.1
```

show uccx dbserver sessions all

3	db_cra	512.0	8.8	503.2
4	db_hist	13000.0	3651.4	9348.6
5	db_cra_repository	10.2	2.9	7.3
6	db_frascal	512.0	2.8	509.2
7	temp_uccx	1572.9	0.1	1572.7
8	uccx_sbospace	3145.7	2988.1	157.6
9	uccx_er	204.8	0.1	204.7
10	uccx_ersb	1572.9	1494.1	78.8

CHUNK NO.	OFFSET	TOTAL SIZE (MB)	FREE SIZE (MB)	FILENAME
1	0	358.4	292.1	/var/opt/cisco/uccx/db/root_uccx_dbs
2	0	317.4	10.1	/var/opt/cisco/uccx/db/log_dbs
3	0	512.0	503.2	/var/opt/cisco/uccx/db/db_cra_dbs
4	0	13000.0	9348.6	/common/var-uccx/dbc/db_hist_dbs
5	0	10.2	7.3	/var/opt/cisco/uccx/db/db_cra_repository_dbs
6	0	512.0	509.2	/var/opt/cisco/uccx/db/db_frascal_dbs
7	0	1572.9	1572.8	/common/var-uccx/dbc/temp_uccx_dbs
8	0	3145.7	157.6	/var/opt/cisco/uccx/db/uccx_sbospace_dbs
9	0	204.8	204.7	/common/var-uccx/dbc/uccx_er_dbs
10	0	1572.9	78.8	/common/var-uccx/dbc/uccx_ersb_dbs

show uccx dbserver sessions all

このコマンドは、各データベース ユーザセッションの詳細なセッションと SQL 関連の情報を表示します。表示される情報の内容は、各アクティブセッションに IDS コマンドの **onstat -g ses** を実行した場合と同じです。

コマンド構文

show uccx dbserver sessions all [options]

オプション

- page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

- file : .txt ファイルに情報を出力します。ファイル名は実行時に動的に生成され、ファイル名とパスが操作完了後にユーザに表示されます。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx dbserver sessions all
IBM Informix Dynamic Server Version 10.00.UC5XD -- On-Line -- Up 58
days 02:26:37 -- 444676 Kbytes

session #RSAM total used
dynamic
id user tty pid hostname threads memory memory
explain
27 cudbeven - 6750 crslnx 1 151552 75400
off

tid name rstcb flags curstk status
75 sqlxec 52477164 Y--P--- 4208 cond wait(netnorm)

Memory pools count 2
name class addr totalsize freesize #allocfrag #freefrag
27 V 5309a020 147456 73704 148 50
27*00 V 5442f020 4096 2448 1 1

name free used name free used
overhead 0 3296 scb 0 96
opentable 0 6456 filetable 0 1088

sqscb info
scb sqscb optofc pdqpriority sqlstats optcompind directives
52fda4d0 53234018 0 0 0 0 1

Sess SQL Current Iso Lock SQL ISAM F.E.
Id Stmt type Database Lvl Mode ERR ERR Vers
Explain
27 - uccxdirdb CR Wait 30 0 0 9.03 Off

Last parsed SQL statement :
SELECT FIRST 100 *, CAST(Timestamp AS varchar(32)) AS strTimestamp,
CAST(Object_Id AS varchar(64)) AS strObject_Id FROM
UccxDB: DbChangeEventQ WHERE EventId > ?ORDER BY EventId ASC
```

show uccx dbserver session

このコマンドは、データベース サーバに接続されているユーザを表す、特定のセッションの詳細なセッション情報および SQL 関連情報を表示します。表示される情報の内容は、セッション ID

で指定したアクティブなセッションに対して IDS コマンドの **onstat -g ses** を実行した場合と同じです。

コマンド構文

show uccx dbserver session session_id [options]

引数

session_id : (必須) Informix セッション ID 番号

オプション

page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

file : .txt ファイルに情報を出力します。ファイル名は実行時に動的に生成され、ファイル名とパスが操作完了後にユーザに表示されます。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx dbserver session 58
IBM Informix Dynamic Server Version 11.50.UC4      -- On-Line -- Up 14
days 04:43:40 -- 254160 Kbytes

session          effective                               #RSAM   total
  used          dynamic
id   user      user      tty      pid      hostname threads  memory
memory explain
58   uccxuser -      -      -1      sakkumar 1          126976
  107496      off

tid      name      rstcb      flags      curstk      status
93       sqlxec    4b2deca0  Y--P---   5680        cond wait  netnorm  -

Memory pools      count 2
name      class addr      totalsize freesize #allocfrag #freefrag
58         V      4caa9028 122880    17064     332        18
58*00     V      4c9d0028 4096      2416      1          1

name      free      used      name      free      used
overhead  0         3360     scb       0         96
opentable 0         8344     filetable 0         1104
ru         0         464      log       0         16512
temprec   0         21600    keys      0         1392
ralloc    0         5120     gentcb    0         1240
ostcb     0         2600     sqscb     0         29384
sql       0         40       rdahead   0         848
hashfiletab 0         280     osenv     0         1552
sqtcb     0         7464     fragman   0         368
GenPg     0         592     udr       0         5136

sqscb info
```



```

scb          sqscb      optofc      pdqpriority sqlstats    optcompind  directives
4c907018    4cc92018    1           0            0           2           1

Sess          SQL              Current          Iso Lock        SQL  ISAM
F.E.
Id            Stmt type       Database         Lvl Mode        ERR  ERR
Vers Explain
58           -              db_cra          LC  Not Wait      0    0
9.28 Off

Last parsed SQL statement :
select campaignen0_.campaignID as campaignID3_, campaignen0_.profileID
as
profileID3_, campaignen0_.recordID as recordID3_, campaignen0_.active
as
active3_, campaignen0_.ansMachineRetry as ansMachi5_3_,
campaignen0_.cacheSize as cacheSize3_, campaignen0_.callbackTimeLimit
as
callback7_3_, campaignen0_.campaignName as campaign8_3_,
campaignen0_.createDateTime as createDa9_3_, campaignen0_.dateInactive
as
dateIna10_3_, campaignen0_.description as descrip11_3_,
campaignen0_.enabled as enabled3_, campaignen0_.endTime as endTime3_,

campaignen0_.maxAttempts as maxAttel14_3_,
campaignen0_.missedCallbackAction as missedC15_3_,
campaignen0_.privateData as privatel6_3_, campaignen0_.startTime as
startTime3_ from Campaign campaignen0_ where campaignen0_.active=?
Command successful.

```

show uccx dbserver sessions list

このコマンドは、アクティブな各 Unified CCX データベース セッションの概要を 1 行で表示します。この概要には、データベース名、ユーザ名、セッション ID、およびプロセス ID が含まれます。セッション ID 情報を使用すると、**show uccx dbserver session** コマンドを使用して指定したセッションについてのより詳細な情報が表示されます。

コマンド構文

show uccx dbserver sessions list [options]

オプション

page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```

admin:show uccx dbserver sessions list
DATABASE          USERNAME          SESSION PROCESS ID

```

show uccx dbserver user list

```

-----
db_cra          uccxuser          49          -1
db_cra          uccxuser          44          -1
db_cra          uccxuser          46          -1
db_cra          uccxuser          61          -1
db_cra          uccxuser          24          -1
db_cra          uccxuser          18          -1
db_cra          uccxhouser        31224       -1
db_cra          uccxuser          62          -1
db_cra          uccxuser          60          -1
db_cra          uccxuser          47          -1
db_cra          uccxuser          59          -1
db_cra          uccxuser          58          -1
db_cra          uccxuser          48          -1
db_cra          uccxuser          50          -1
db_cra          uccxcliuser       31616       -1

```

Command successful.

show uccx dbserver user list

このコマンドは、アクティブな各 uccx データベースユーザの概要を 1 行で表示します。この概要には、データベース名、セッション ID、およびプロセス ID が含まれます。セッション ID 情報を使用すると、**show Unified CCX dbserver session** コマンドを使用して指定したセッションについてのより詳細な情報が表示されます。

コマンド構文

show uccx dbserver user list [option]

オプション

page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```

admin:show uccx dbserver user list
-----
DATABASE          USERNAME          SESSION  PROCESS ID
-----
sysadmin          informix          15          0
sysadmin          informix          16          0
sysadmin          informix          17          0
sysmaster         uccxuser          18          -1
db_cra            uccxuser          18          -1
sysmaster         uccxuser          24          -1
db_cra            uccxuser          24          -1
db_cra            uccxuser          25          -1
db_cra_repository uccxuser          25          -1
sysmaster         uccxuser          25          -1
fcrassvr          uccxuser          26          -1

```

```

sysmaster      uccxuser      26      -1
sysmaster      uccxuser      44      -1
db_cra         uccxuser      44      -1
db_cra_repository uccxuser      45      -1
sysmaster      uccxuser      46      -1
db_cra         uccxuser      46      -1
sysmaster      uccxuser      47      -1
db_cra         uccxuser      47      -1
db_cra         uccxuser      48      -1
sysmaster      uccxuser      48      -1
sysmaster      uccxuser      49      -1

Command successful.

```

show uccx dbserver user waiting

このコマンドは、各 Unified CCX データベース ユーザの概要を 1 行で表示するとともに、ユーザセッションがリソースを待機しているかどうか也表示します。

コマンド構文

show uccx dbserver user waiting [option]

オプション

page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```

admin:show uccx dbserver user waiting
-----
USERNAME      SESSION ID LATCH LOCK BUFFER CHECKPOINT TRANSACTION INCRITICAL
-----
informix      16      N      N      N      N      N
N
informix      17      N      N      N      N      N
N
informix      15      N      N      N      N      N
N
uccxcliuser   33927   N      N      N      N      N
N
uccxcliuser   32784   N      N      N      N      N
N
uccxcliuser   32737   N      N      N      N      N
N
uccxcliuser   32631   N      N      N      N      N
N
uccxcliuser   34424   N      N      N      N      N
N
uccxcliuser   32522   N      N      N      N      N

```

```

N
uccxcliuser      34364      N   N   N   N   N
N
uccxcliuser      32508      N   N   N   N   N
N
uccxcliuser      32480      N   N   N   N   N
N
uccxcliuser      31616      N   N   N   N   N
N
uccxcliuser      31601      N   N   N   N   N
N
uccxcliuser      34327      N   N   N   N   N
N
uccxcliuser      34071      N   N   N   N   N
N
uccxcliuser      33981      N   N   N   N   N
N
uccxcliuser      33939      N   N   N   N   N
N
uccxhrruser      31224      N   N   N   N   N
N
uccxuser         30278      N   N   N   N   N
N
uccxuser         60         N   N   N   N   N
N
Command successful.

```

show uccx tech dbserver log message

このコマンドは、Informix メッセージログの最新のメッセージを表示します。表示されるメッセージの数は、lines パラメータによって決定されます。

コマンド構文

show uccx tech dbserver log message [lines] [option]

引数

lines : (任意) 表示するメッセージログの行数。デフォルトは 20 です。

オプション

page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```

admin:show uccx tech dbserver log message 10
Message Log File: online.uccx.log

```

The last 10 lines of the log file are -

```
16:05:19 Maximum server connections 33
16:05:19 Checkpoint Statistics - Avg.Txn Block Time 0.000, # Txns blocked
0, Plog used 21, Llog used 12

16:10:19 Checkpoint Completed: duration was 0 seconds.
16:10:19 Wed Aug 19 - loguniqu 8, logpos 0x93c018, timestamp: 0xb0244c
Interval: 4106

16:10:19 Maximum server connections 33
16:10:19 Checkpoint Statistics - Avg.Txn Block Time 0.000, # Txns blocked
0, Plog used 2, Llog used 2

Command successful.
```

show uccx dbtable contents

このコマンドは、指定したテーブルの内容を表示します。

コマンド構文

```
show uccx dbtable contents database_name table_name [option]
```

引数

database_name : (必須) テーブルが存在するデータベースの名前 (例 : db_cra、db_cra_repository など)

table_name : (必須) テーブルの名前

オプション

page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx dbtable contents db_cra resource
Output is in file: uccx/cli/resource_Contents_1250666550481.csv

Command successful.
```

set コマンド

set uccx trace defaults

このコマンドは、UnifiedCCX のすべてのコンポーネントとサブコンポーネントにデフォルトのトレースレベルを設定します。オプションコンポーネントを指定した場合は、指定したコンポーネントのすべてのサブコンポーネントにのみデフォルトのトレースレベルを設定します。オプションのコンポーネントとサブコンポーネントの両方を指定すると、そのコンポーネントの下の指定したサブコンポーネントにのみデフォルトのトレースレベルを設定します。

コマンド構文

set uccx trace defaults [component] [subcomponent]

オプション

- **Component** : (必須) このコンポーネントのすべてのサブコンポーネントにデフォルトのトレースレベルを設定します。さまざまなコンポーネントとは UCCXEngine、UCCXCvd、UCCXAppAdmin、および JTAPI_CLIENT です。
- **Sub-component** : (任意) 指定したコンポーネントにこのサブコンポーネントのデフォルトのトレースレベルを設定します。このトレースレベルは、先行するコンポーネントが指定されている場合にのみ指定できます。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:set uccx trace defaults uccxengine
SS_HTTP
Default traces restored successfully for the module.
```

set uccx trace file size component size

このコマンドは、指定したコンポーネントのトレースファイルサイズを設定します。

コマンド構文

set uccx trace file size [component] [size]

パラメータ

component : (必須) UCCXEngine または UCCXEditor などのコンポーネント。

size : (必須) ファイルサイズをバイト単位で指定します。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:set uccx trace file size uccxengine 3145728
Trace file size for uccxengine is set to 3145728 bytes.
```

set uccx trace file count component no-of-files

このコマンドは、指定されたコンポーネントのトレースファイルの数を設定します。つまり、このトレースファイルの最大数に達すると、古いファイルの上書きが開始されます。

コマンド構文

```
set uccx trace file count [component] [no-of-files]
```

引数

- **component** : (必須) UCCXEngine または UCCXEditor などのコンポーネント。
- **no-of-files** : (必須) ファイルの数を指定します。この数に達すると、古いファイルが上書きされます。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:set uccx trace file count uccxengine 300
Trace file count for uccxengine is set to 300
```

set uccx trace enable

コマンド内に指定されたコンポーネントでサブコンポーネントに指定したログレベルを有効にします。ユーザは、カンマで区切ることにより、複数のレベルのロギングを入力できます。

コマンド完了後、現在のログトレース設定が有効になっていることを示すメッセージが表示されます。

トレースの変更を反映するために、Unified CCX サービスを再起動します。

コマンド構文

```
set uccx trace enable [component] [sub-component][level]
```

オプション

component : (必須) UCCXEngine または UCCXEditor または JTAPI_CLIENT などのコンポーネント。

sub-component : (必須) UCCXEngine コンポーネント内の JTAPI サブシステムなどのコンポーネント内のサブコンポーネント。JTAPI_CLIENT コンポーネントの場合は、サブコンポーネントはありません。

Level : (必須) 有効になるログ レベル。トレース レベルは、Debugging、XDebugging1、XDebugging2、XDebugging2、XDebugging3、XDebugging4、XDebugging5 です。JTAPI_CLIENT の場合のトレース レベルは、Warning、Informational、Debug、Jtapi_Debug、JtapiImpl_Debug、Cti_Debug、CtiImpl_Debug、Protocol_Debug、Misc_Debug です。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例 1

```
admin:set uccx trace enable uccxengine SS_HTTP debugging
Trace for uccxengine:SS_HTTP:debugging is enabled.
Command successful.
```

例 2

```
admin:set uccx trace enable UCCXengine ICD_CTI XDEBUGGING1,XDEBUGGING2
Trace for uccxengine:ICD_CTI:XDEBUGGING1 is enabled
Trace for uccxengine:ICD_CTI:XDEBUGGING2 is enabled
Command successful.
```

set uccx trace disable

コマンド内に指定されたコンポーネントで、サブコンポーネントに指定したロギングレベルを無効にします。ユーザは、カンマで区切ることにより、複数のレベルのロギングを入力できます。このコマンドを使用してアラームのトレースをオフにすることはできません。

コマンド完了後、現在のログトレース設定が有効になっていることを示すメッセージが表示されます。

トレースの変更を反映するために、Unified CCX サービスを再起動します。

コマンド構文

set uccx trace disable [component] [sub-component] [level]

オプション

Component : UCCXEngine または UCCXEditor または JTAPI_CLIENT などのコンポーネント。

Sub-component : UCCXEngine コンポーネント内の JTAPI サブシステムなどのコンポーネント内のサブコンポーネント。JTAPI_CLIENT コンポーネントの場合は、サブコンポーネントはありません。

Level : (必須) 無効になるロギング レベル。トレース レベルは、Debugging、XDebugging1、XDebugging2、XDebugging2、XDebugging3、XDebugging4、XDebugging5 です。JTAPI_CLIENT の場合のトレース レベルは、Warning、Informational、Debug、Jtapi_Debug、JtapiImpl_Debug、Cti_Debug、CtiImpl_Debug、Protocol_Debug、Misc_Debug です。トレース レベルは、コマンドのヘルプの一部として利用できます。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例 1

```
admin:set uccx trace disable uccxengine ss_tel debugging
Trace for uccxengine:ss_tel:debugging is disabled.
Command successful.
```

例 2

```
set uccx trace disable UCCXEngine ICD_CTI XDEBUGGING1,XDEBUGGING2
Trace for uccxengine:ICD_CTI:XDEBUGGING1 is disabled
Trace for uccxengine:ICD_CTI:XDEBUGGING2 is disabled
Command successful.
```

set password user security

このコマンドは、UCOS ボックスの security/SFTP パスワードを変更します。セキュリティパスワードの変更のほかに、内部 Unified CCX ユーザのパスワードも変更します。

コマンド構文

set password user security

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:set password user security
Please enter the old password: *****
Please enter the new password: *****
Reenter new password to confirm: *****
WARNING:
Please make sure that the security password on the publisher is changed first.
```

```
The security password needs to be the same on all cluster nodes,
including the application server, therefore the security password on all
nodes
need to be changed.

After changing the security password on a cluster node, please restart
that node.

Continue (y/n)?y

Please wait...

Command successful.
```

set uccx provider ip axl

このコマンドは、Unified CCX AXL プロバイダーの IP アドレスを設定します。Unified Communications Manager の IP アドレスが変更され、Unified CCX が新しい IP アドレスをポイントしている場合にも、このコマンドを使用します。



(注) このコマンドの実行後に、Unified CCX Engine サービスを再起動します。Unified CCX Engine サービスが正常に起動した後、CLI コマンド **utils service restart Cisco Tomcat** を使用して Cisco Tomcat を再起動します。

Unified CCX Engine サービスを再起動する方法の詳細については、次の Web サイトで入手可能な『*Cisco Unified CCX Serviceability Administration Guide*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/products_installation_and_configuration_guides_list.html

コマンド構文

```
set uccx provider ip axl [ip-address]
```

引数

[ip-address] : AXL プロバイダーの IP アドレス。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin: set uccx provider ip axl 10.78.14.140
Cisco Unified Communications Manager IP is set to 10.78.14.140

Command Successful.
```

set uccx provider ip jtapi

このコマンドは、Unified CCX JTAPI プロバイダーの IP アドレスを設定します。Unified Communication Manager の IP アドレスが変更され、Unified CCX が新しい IP アドレスをポイントしている場合にのみ、このコマンドを使用します。



(注) このコマンドの実行後に、Unified CCX Engine サービスを再起動します。Unified CCX Engine サービスが正常に起動した後、CLI コマンド **utils service restart Cisco Tomcat** を使用して Cisco Tomcat を再起動します。

Unified CCX Engine サービスを再起動する方法の詳細については、次の Web サイトで入手可能な『Cisco Unified CCX Serviceability Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/products_installation_and_configuration_guides_list.html

コマンド構文

set uccx provider ip jtapi [ip-address]

引数

[ip-address] : JTAPI プロバイダーの IP アドレス。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin: set uccx provider ip jtapi 10.78.14.140
UCCX JTAPI Provider is set to 10.78.14.140
```

```
Command Successful.
```

set uccx provider ip rmcm

このコマンドは、Unified CCX Resource Manager-Contact Manager プロバイダーの IP アドレスを設定します。Unified Communications Manager の IP アドレスが変更され、Unified CCX が新しい IP アドレスをポイントしている場合にのみ、このコマンドを使用します。



(注) このコマンドの実行後に、Unified CCX Engine サービスを再起動します。Unified CCX Engine サービスが正常に起動した後、CLI コマンド **utils service restart Cisco Tomcat** を使用して Cisco Tomcat を再起動します。

Unified CCX Engine サービスを再起動する方法の詳細については、次の Web サイトで入手可能な『Cisco Unified CCX Serviceability Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/products_installation_and_configuration_guides_list.html

コマンド構文

set uccx provider ip rmcm *[ip-address]*

引数

[ip-address] : RMCM プロバイダーの IP アドレス。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin: set uccx provider ip rmcm 10.78.14.140
UCCX RMCM Provider is set to 10.78.14.140
Command Successful.
```

set uccx appadmin administrator

このコマンドを使用して、Unified Communications Manager のユーザに管理者機能を追加できます。



(注) 設定された Unified CCX システムのみに管理者を設定するには、このコマンドを実行します。新しくインストールされたシステムでは、インストール時に指定したプラットフォーム ログインパスワードでログインする必要があります。

コマンド構文

set uccx appadmin administrator *[username]*

オプション

[username] : ユーザ名は、Cisco Unified CCX アプリケーション管理として設定されます。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:set uccx appadmin administrator username
UCCX appadmin adminstrator is set to username
```



- (注) Unified CCX のインストール時に作成したアプリケーション管理者のユーザ ID と同じユーザ ID に管理者機能を割り当てることはできません。このようなユーザ ID に管理者機能を割り当てると、「Command failed」というエラーメッセージがコンソールに表示されます。

run コマンド

run uccx hrdataexport

このコマンドは、履歴レポートデータと関連する設定情報を csv ファイルにダンプして、エクスポートされたすべての csv ファイルを含む tar ファイルを作成します。tar ファイルは <activelog>/uccx/log/db/hrdataexport の下のローカルファイルシステムに保存されます。

コマンド出力には、ファイル名と生成された tar ファイルをリモートサーバに転送し、ローカルディスクからファイルを削除するために実行する必要がある特定のコマンドが表示されます。

[Start Date] と [End Date] を指定した場合は、開始日と終了日を含む期間のデータがエクスポートされます。1 つの日付パラメータのみが渡された場合は開始日と見なされ、その日付以降のすべてのデータがエクスポートされます。



- (注) コマンドを実行すると、作成された以前の tar ファイルが削除されます。任意の時点で 1 つの履歴レポートデータのエクスポートファイルがローカルファイルシステムに保存されます。そのため、履歴レポートデータがエクスポートされた後、コマンドを再度実行する前に、リモートサーバに tar ファイルを転送します。

コマンド構文

run uccx hrdataexport all [Start Date] [End Date]

すべての履歴レポートデータをダンプします。

run uccx hrdataexport reports *report names* [Start Date] [End Date]

特定のレポートのすべての履歴レポートデータをダンプします。

run uccx hrdataexport tables *table names* [Start Date] [End Date]

特定のテーブル名のすべての履歴レポート データをダンプします。

パラメータ

[report names] : (必須) 対応するデータをエクスポートする必要がある特定のレポートのカンマ区切りの名前。レポート名のリストを“ ” (二重引用符) で囲みます。

[table names] : (必須) データをエクスポートする特定のテーブルのカンマ区切りの名前。テーブル名のリストを“ ” (二重引用符) で囲みます。

[Start Date] : (任意) 二重引用符を含めて「yyyy-MM-dd HH:mm:ss」の形式にする必要があります。

[End Date] : (任意) 二重引用符を含めて「yyyy-MM-dd HH:mm:ss」の形式にする必要があります。

例

```
admin:run uccx hrdataexport all "2012-01-01 00:00:00" "2012-02-01 00:00:00"
```

```
admin:run uccx hrdataexport reports "abandoned call detail activity
report,aborted rejected call detail report"
"2012-01-01 00:00:00" "2012-02-01 00:00:00"
```

```
admin:run uccx hrdataexport tables
"agentconnectiondetail,agentstatedetail,contactcalldetail"
"2012-01-01 00:00:00" "2012-02-01 00:00:00"
```

run uccx sql database_name sql_query

CLI から SQL 「select」 文を実行します。読み取り専用操作が許可されています。挿入、更新、削除、および DML 文は許可されていません。このコマンドでは、Unified CCX データベース (データストア) および Unified CCX Informix インスタンス (IDS エンジン) の sysmaster データベースに対してクエリーを実行できます。

コマンド構文

run uccx sql database_name sql_query [options]

引数

database_name : (必須) SQL 文を実行するデータベース

sql_query : (必須) 実行する SQL 文

オプション

page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

file : コンソールに表示せずに、ファイルに出力を保存します。ファイル名はコマンドの完了後に表示されます。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用：不可

例

```
admin:run uccx sql db_cra select resourceid, resourcename from resource
RESOURCEID      RESOURCENAME
-----
1              b
2              agent22
3              sacagent3
4              sacagent1
7              user
8              sacagent2
9              user agent2
10             user rtlitel1
11             agent130
14             sk1
15             sk2
24             User RT Pro
```

run uccx sp database_name sp_name

パラメータとしても指定されているデータベースで、パラメータとして指定されているストアードプロシージャを実行します。このコマンドは、ストアードプロシージャのみを実行します。

コマンド構文

run uccx sp database_name sp_name [options]

引数

database_name：（必須）ストアードプロシージャが実行されるデータベース

sp_name：（必須）実行するストアードプロシージャ

オプション

page：出力を一度に1ページずつ表示します。

file：コンソールに表示せずに、ファイルに出力を保存します。ファイル名はコマンドの完了後に表示されます。

要件

レベル特権：0

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

例

```
admin:run uccx sp db_cra sp_ivr_traffic_analysis('2008-11-20 00:00:00',
'2008-12-20 00:00:00', 0)
DATEVALUE      TOTAL_INCOMING_CALLS      AVG_CALLS      PEAK_CALLS
START_PEAK_HOUR END_PEAK_HOUR      AVG_CALL_LENGTH MIN_CALL_LENGTH
MAX_CALL_LENGTH FINAL_AVG_CALLS FINAL_AVG_CALL_LEN      LATESTSYNCHEDTIME
```

```
No records found.
Command successful.
```

utils コマンド

utils uccx notification-service log

このコマンドでは、Cisco Unified CCX Notification Service のデバッグ ログを有効または無効にしたり、ステータスを確認したりすることができます。

デフォルトでは、Cisco Unified CCX Notification Service のデバッグ ログは無効になっています。このサービスに関連するシステムに問題がある場合や、トラブルシューティングの詳細なログが必要な場合は、Cisco Unified CCX Notification Service のデバッグ ログを有効にします。トラブルシューティングが完了した後で、Cisco Unified CCX Notification Service のデバッグ ログを無効にします。

Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool が提供するログ収集機能からログを取得できます。

Cisco Unified CCX Notification Service が実行されている場合のみ、**utils uccx notification-service log** を実行できます。サービスが実行されていない場合は、まずサービスを起動してから、コマンドを実行します。



(注)

- Cisco Unified CCX Notification Service のログはシステム パフォーマンスに影響を与えるため、必要のない場合はログを無効にします。
- Cisco Unified CCX Notification Service を再起動したときに、ログは自動的に無効になります。

コマンド構文

```
utils uccx notification-service log enable
utils uccx notification-service log disable
utils uccx notification-service log status
```

引数

なし

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

ロギングのステータスの確認

```
admin:utils uccx notification-service log status
Cisco Unified CCX Notification Service logging is currently DISABLED.
```

ロギングの有効化

```
admin:utils uccx notification-service log enable
WARNING!Enabling Cisco Unified CCX Notification Service logging can affect
system performance and should be disabled when logging is not required.
Do you want to proceed (yes/no)?
Cisco Unified CCX Notification Service logging enabled successfully.
NOTE: Logging will be disabled automatically if Cisco Unified CCX
Notification Service is restarted.
```

ロギングの無効化

```
admin:utils uccx notification-service log disable
Cisco Unified CCX Notification Service logging disabled successfully.
```

utils remote_account

このコマンドを使用すると、リモートアカウントのステータスをイネーブルまたはディセーブルにしたり、作成または確認したりすることができます。

コマンド構文

- `utils remote_account status`
- `utils remote_account enable`
- `utils remote_account disable`
- `utils remote_account create username life`

引数

- **username** : リモートアカウントの名前を指定します。username は小文字だけを使用でき、6文字以上でなければなりません。
- **life** : アカウントが有効な日数を指定します。指定した日数が過ぎると、アカウントは使用できなくなります。

使用上のガイドライン

リモートアカウントは、パスフレーズを生成します。シスコのサポート担当者はこれを使用することにより、アカウントの指定有効期間の間、システムにアクセスできます。同時に有効にできるリモートアカウントは1つだけです。

例

```
admin:utils remote_account status
Remote Support
Status      : disabled
Decode Version : 2
```



注意

「uccx」や「UCCX」で始まるリモートアカウントユーザ名は作成しないでください。このようなユーザ名は、Cisco Unified Contact Center Express サーバ内で内部的に使用されているシステムアカウントの名前と競合する可能性があります。

utils reset_application_ui_administrator_name

このコマンドは、Serviceability、OAMP、CUIC Admin プロパティ、CUIC 管理者のアプリケーション ユーザ インターフェイスの管理者名をリセットします。

コマンド構文

utils reset_application_ui_administrator_name

コマンド モード

管理者 (admin)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能



(注)

クラスタ内のすべてのノードでサービス (Cisco Unified Intelligence Center Reporting Service) を再起動し、新しい管理者が Unified Intelligence Center にログインできるようにします。

```
admin:utils reset_application_ui_administrator_name
----- utils reset_ui_administrator_name -----

Reset user interface administrator user name
New administrator user name:
User_1
Serviceability Administrator user name has been successfully updated to
User_1

OAMP user name has been successfully updated to User_1

CUIC Admin property has been successfully updated to User_1

CUIC Administrator user name has been successfully updated to User_1
```

utils reset_application_ui_administrator_password

このコマンドは、アプリケーションユーザインターフェイスの管理者パスワードをリセットします。

コマンド構文

```
utils reset_application_ui_administrator_password
```

コマンドモード

管理者 (admin)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:utils reset_application_ui_administrator_password
New password:*****
Confirm new Password:*****
```

utils service

このコマンドで、次のサービスを起動、停止、再起動することができます。

- System SSH
- Service Manager
- Cisco DB
- Cisco Database Layer Monitor
- Cisco DRF Local
- Cisco DRF Master
- Cisco Tomcat
- Cisco Unified Serviceability RTMT
- Cisco Finesse Tomcat
- Cisco Unified CCX クラスタ ビュー デーモン
- Cisco Unified CCX Database
- Cisco Unified CCX Administration
- Cisco Unified CCX Serviceability
- Cisco Unified CCX Engine
- Cisco Unified CCX DB Perfmon Counter Service
- Cisco Unified CCX Notification Service

- Cisco Unified CCX Perfmon Counter Service
- Cisco Unified CCX SNMP Java Adapter
- Cisco Unified CCX WebServices
- Cisco Unified CCX Configuration API
- Cisco Unified CCX 音声サブエージェント
- Cisco Unified CCX Socket.IO Service
- Cisco Unified Intelligence Center Reporting Service
- Cisco Unified Intelligence Center Serviceability Service

コマンド構文

utils service [option] [service-name]

引数

option : サービスを停止、起動、または再起動するオプション。

service-name : 停止、起動、または再起動するサービス。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils service start Cisco Unified CCX Administration
Service Manager is running
Cisco Unified CCX Administration[STARTING]
Cisco Unified CCX Administration[STARTING]
Cisco Unified CCX Administration[STARTED]
Cisco Unified CCX Administration[STARTED]
```

utils system upgrade

このコマンドを使用すると、アップグレードおよびCisco Option Package (COP) ファイルを、ローカルとリモートの両方のディレクトリからインストールできます。

コマンド構文

utils system upgrade [Options]

オプション

initiate : 新しいアップグレードウィザードを起動するか、既存のアップグレードウィザードの制御を想定します。ウィザードにより Unified CCX のアップグレード ファイルの場所を入力するよう求められます。

status : アップグレードのステータスを表示します。

cancel : アップグレードプロセスを停止します。

例

```
admin:utils system upgrade initiate

Warning: Do not close this window without first canceling the upgrade.

Source:

  1) Remote Filesystem via SFTP
  2) Remote Filesystem via FTP
  3) Local DVD/CD
  q) quit

Please select an option (1 - 3 or "q") :
```

utils system switch-version

このコマンドは、システムを再起動し、非アクティブなパーティションにインストールされている Unified CCX 製品リリースに切替えます。

コマンド構文

utils system switch-version

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

ユーザが CLI からスイッチバージョン、システムの再起動、またはシステムのシャットダウンを開始すると、警告メッセージが表示され、Unified CCX でコマンドの実行に進む前にユーザの確認が要求されます。このコマンドは、次のシナリオに適用されます。

- スイッチバージョンが進行中であることをシステムが検出する。
- 以前のスイッチバージョンが突然終了されたことをシステムが検出する。



(注) スイッチバージョン操作は、操作の進行中に Unified CCX システムで電源のリセットやハードリブートが実行されたときに、突然終了します。

例

```
admin:utils system switch-version

** There is no inactive side available **
```

utils uccx database dbserver integrity

このコマンドは、データベース サーバのディスク構造の整合性を確認し、結果を表示します。また、DB 設定の整合性も確認し、整合性がない場合は修正を実行します。詳細情報がテキストファイルに出力されます。Informix の oncheck ユーティリティがコマンドに使用されます。

コマンド構文

utils uccx database dbserver integrity

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:utils uccx database dbserver integrity
This operation may take a few minutes to complete.Please wait...

Output is in file: uccx/cli/DbServerIntegrity_1372844998930.txt

Command successful.
Starting DB config integrity check
This operation may take a few minutes to complete.Please wait...

Output is in file: uccx/cli/DbConfigIntegrity_1372845048816.txt
Use "file view activelog uccx/cli/DbConfigIntegrity_1372845048816.txt"
command to see output
Command successful.
```



(注) 実行したすべてのチェックの出力を含むファイルの名前がコマンドスクリプトによって自動的に生成されます。一意にするファイル名の名前付け形式は、DbServerIntegrity_<TIMESTAMP>.txt です。この形式により、プロセス全体および長期間にわたって一意性が保たれます。ファイルパスとファイル名は、操作の完了後に表示されます。

utils uccx list license

このコマンドは、uccx システムにアップロードされているライセンスを一覧表示します。

コマンド構文

utils uccx list license

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用：不可

例

```
admin:utils uccx list license
The following licenses are uploaded in the system:
ccx90_pre_demo.lic
UCCXLicense.lic
ccx100_premium_300seat_allfeatures_dummy.lic
ccx90_enh_demo.lic
ccx_10.5-300_Seat_DummyLicense.lic
Command successful.
```

utils uccx delete license licenseName

このコマンドは、Unified CCX システムにすでにアップロードされているライセンスを永続的または一時的に削除します。



注意

Unified CCX システムにアップロードされたライセンスを、一時的なものか、永続的なものかを確認せずに削除するため、このコマンドを使用するには十分な注意が必要です。このコマンドは、誤っていたり、無効になっている永続的なライセンスを削除する場合にのみ使用することを推奨します。一時ライセンスは、Unified CCX Administration を使用して削除できます。



(注)

単一ノードのシステムでは、まず delete コマンドを実行してから、Unified CCX ノードを再起動します。HA システムでは、delete コマンドを 2 つのノードのそれぞれで個別に実行してから、クラスタ内の両方の Unified CCX ノードを再起動します。

コマンド構文

utils uccx delete license licenseName

引数

licenseName : Unified CCX システムから削除するライセンスの名前。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils uccx delete license ccx10_premium_300seat.lic
Warning:
Deleting the license may have adverse effect on the working of the uccx
system.
After deleting the license from all UCCX nodes, restart the UCCX nodes
in the cluster.
Are you sure you want to run this command?
```

```
Continue (y/n)?n
Exiting the command.
Command successful.
```

utils uccx jtapi_client update

このコマンドは、Unified CCX ボックスのアクティブなパーティションの JTAPI クライアントバージョンを更新して、Unified Communications Manager の JTAPI バージョンに一致させます。このコマンドは、Unified Communications Manager から JTAPI クライアントをダウンロードし、ダウンロードしたバージョンをインストールする必要があるかどうかを確認します。ダウンロードしたバージョンをインストールする必要がある場合は、ダウンロードした JTAPI クライアントをインストールし、以前のバージョンと現在のバージョンで JTAPI クライアントが更新されたことを示すメッセージを表示します。ダウンロードしたバージョンをインストールする必要がない場合は、同じであることを示すメッセージを表示し、現在の JTAPI クライアントバージョンを表示します。

HA 展開の場合、JTAPI クライアントはローカルノードでのみ更新され、2 番目のノードでは更新されません。



(注) このコマンドの実行後、Unified CCX サーバをリブートし、すべての Unified CCX サービスを再起動する必要があります。

コマンド構文

utils uccx jtapi_client update

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils uccx jtapi_client update
Node ID: 1 -- Cisco JTAPI Client versions are consistent
Command successful.
```

utils uccx prepend_custom_classpath

このコマンドは、システム クラスパスの前に CustomJarName をクラスパスに追加します。



(注) カスタムコードと Unified CCX で使用される共通クラスがある場合で、使用中の共通クラス間にバージョン不整合があるときに、このコマンドを使用する必要があります。

**注意**

カスタムクラスファイルに、UnifiedCCXで使用されるクラスファイルよりも新しいバージョンが存在する場合は、カスタムクラスパスを追加する必要があります。クラスパスの開始時に古いバージョンのクラスファイルを追加すると、システムが不安定になる可能性があります。

コマンド構文

```
utils uccx prepend custom_classpath [CustomJarName]
```

引数

CustomJarName : クラスパスの先頭に追加するカスタム jar ファイル名。

例

```
admin:utils uccx add custom_classpath jsafe.jar  
Command successful.
```

utils uccx switch-version db-check

このコマンドを使用すると、スイッチバージョン試行の途中での再起動によりスイッチバージョンが失敗した後にデータベースが破損したかどうかを確認することができます。このコマンドは、最後のスイッチバージョンのステータスを表示します。復元可能なデータベースバックアップが使用できる場合は、そのバックアップのタイムスタンプを出力し、CLI コマンド **utils uccx switch-version db-recover** を表示してこのバックアップからリカバリします。

コマンド構文

```
utils uccx switch-version db-check
```

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils uccx switch-version db-check  
ccx DB was found to be corrupted.  
  
Last switch version was aborted at 05/29/2012 16:18:07  
05/29/2012 16:18:07|root:Switch Version 9.0.1.10000-41 to 9.0.10000-42  
Aborted  
  
There is a CCX backup with timestamp 2012-05-29 16:16:19.000000000 +0530  
that was taken during a prior switch version.  
  
!!!WARNING!!!IF YOU CHOOSE TO RECOVER FROM THIS BACKUP, ANY CHANGES DONE  
TO THE DATABASE AFTER THE TIMESTAMP OF THIS BACKUP WILL BE LOST.
```

You can run the CLI command "utils uccx switch-version db-recover" to restore the DB from this backup.

utils uccx switch-version db-recover

このコマンドはまず、スイッチバージョン試行の途中での再起動によりスイッチバージョンが失敗した後にデータベースが破損したかどうかを確認します。このコマンドは、最後のスイッチバージョンのステータスを表示します。復元可能なデータベースバックアップが使用できる場合は、そのバックアップのタイムスタンプを出力し、このバックアップからデータベースを復元するオプションを提供します。復元オプションを選択すると、このバックアップからデータベースを復元し、すべてのサービスを起動させてから、このコマンドは完了します。

コマンド構文

utils uccx switch-version db-recover

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権 : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils uccx switch-version db-recover
CCX DB was found to be corrupted.

Last switch verison was aborted at 05/29/2012 16:18:07
05/29/2012 16:18:07|root:Switch Version 9.0.1.10000-42 Aborted

There is a CCX DB backup with timestamp 2012-05-29 16:16:19:0000000000
+530 that was taken during a prior switch version.

!!!WARNING!!!IF YOU CHOOSE TO RECOVER FROM THIS BACKUP, ANY CHANGES DONE
TO THE DATABASE AFTER THE TIMESTAMP OF THIS BACKUP WILL BE LOST.

Are you sure you want to continue?
Continue (y/n)?y
This operation may take a few minutes to complete.Please wait
```

utils uccx syncusers

このコマンドを使用すると、セキュリティパスワードと Unified CCX ユーザパスワードを同期することができます。

コマンド構文

utils uccx syncusers

例

```
admin:utils uccx syncusers
Command successful.
```

utils uccx synctocuic

ユーザやチームを同期し、レポートおよびストック フォルダに対する権限を Unified CCX から Unified Intelligence Center へ付与します。Unified CCX から Unified Intelligence Center にプッシュされる設定は次のとおりです。

- ユーザ
- チーム
- スtock フォルダ
- レポート
- 値リスト

Unified Intelligence Center の前述の設定に変更を加えると、同期中にそれらの変更が上書きされます。



(注) 同期が失敗した場合、次のコマンド、またはバージ スケジュールの一部である自動同期を実行しても、以前同期したユーザやユーザ グループの権限は取り消されません。

コマンド構文

utils uccx synctocuic

例

```
admin:utils uccx synctocuic
Warning:
Synchronizing all the data to cuic will take some time.
Are you sure you want to run this command?
Continue (y/n)?y
Synchronization of the data from UCCX to CUIC is in progress...
Command successful.
```

utils uccx icd clid status

このコマンドは、発信者 ID (CLID) 機能の現在の設定パラメータ値を表示します。

コマンド構文

utils uccx icd clid status

例

```
admin:utils uccx icd clid status
CLID Feature: Disabled
CLID Text Header: Caller Details
CLID Text Prefix: Calling Party Number :
```

utils uccx icd clid enable

このコマンドでは、CLID 機能を有効にすることができます。

Unified CCX Engine サービスを再起動し、変更を反映します。

HA 展開では、両方の Unified CCX ノードでこのコマンドを個別に実行します。

アップグレード後に、このコマンドをもう一度実行して CLID 機能を有効にします。

コマンド構文

utils uccx icd clid enable

例

```
admin:utils uccx icd clid enable
Successfully enabled the CLID feature
Please restart the "Cisco Unified CCX Engine" service for changes
to take effect
In case of Cisco Unified CCX HA cluster, enable the CLID feature in
remote node as well by running the CLI command
"utils uccx icd clid enable" on the remote node
```

utils uccx icd clid disable

このコマンドを使用すると、CLID 機能を無効にすることができます。

Unified CCX Engine サービスを再起動し、変更を反映します。

HA 展開では、両方の Unified CCX ノードでこのコマンドを個別に実行します。

アップグレード後に、このコマンドをもう一度実行して CLID 機能を無効にします。

コマンド構文

utils uccx icd clid disable

例

```
admin:utils uccx icd clid disable
Successfully disabled the CLID feature
Please restart the "Cisco Unified CCX Engine" service for changes
to take effect
In case of Cisco Unified CCX HA cluster, disable the CLID feature in
remote node as well by running the CLI command
"utils uccx icd clid disable" on the remote node
```

utils uccx icd clid header

このコマンドを使用すると、電話画面の表示ヘッダーを設定することができます。

Unified CCX Engine サービスを再起動し、変更を反映します。

HA 展開では、両方の Unified CCX ノードでこのコマンドを個別に実行します。

アップグレード後に、このコマンドを再度実行して表示ヘッダーの値を設定します。
ヘッダー文字列にスペースがある場合は、文字列全体を二重引用符で囲みます。
値を指定しない場合は、ヘッダー文字列を "" に設定できます。

コマンド構文

utils uccx icd clid header <header string>

例

```
admin:utils uccx icd clid header "Caller Details"
Successfully set the CLID text header to "Caller Details"
Please restart the "Cisco Unified CCX Engine" service for changes
to take effect
In case of Cisco Unified CCX HA cluster, set the CLID text header in
remote node as well by running the CLI command
"utils uccx icd clid header <header string>" on the remote node
```

utils uccx icd clid prefix

このコマンドを使用すると、電話画面に表示される発信者番号のプレフィックス文字列を設定することができます。

Unified CCX Engine サービスを再起動し、変更を反映します。

HA 展開では、両方の Unified CCX ノードでこのコマンドを個別に実行します。

アップグレード後にこのコマンドを再度実行してプレフィックス文字列の値を設定します。

プレフィックス文字列にスペースがある場合は、文字列全体を二重引用符で囲みます。

値を指定しない場合は、プレフィックス文字列を "" に設定できます。

コマンド構文

utils uccx icd clid prefix <prefix string>

例

```
admin:utils uccx icd clid prefix "Calling Party Number : "
Successfully set the CLID text prefix to "Caller Party Number: "
Please restart the "Cisco Unified CCX Engine" service for changes
to take effect
In case of Cisco Unified CCX HA cluster, set the CLID text prefix in
remote node as well by running the CLI command
"utils uccx icd clid prefix <prefix string>" on the remote node
```

utils uccx security_filter enable

このコマンドは、Unified CCX 管理のセキュリティフィルタの設定を有効にするのに使用します。

HA 展開では、両方の Unified CCX ノードでこのコマンドを個別に実行します。

コマンド構文

utils uccx security_filter enable

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils uccx security_filter enable
The status of security filter is: enabled
Please restart Unified CCX service using
'utils service restart Cisco Tomcat' for changes to take effect.
In case of Cisco Unified CCX HA cluster, set the security filter in
remote node as well.
```

utils uccx security_filter disable

このコマンドは、Unified CCX 管理のセキュリティ フィルタの設定を無効にするのに使用します。

HA 展開では、両方の Unified CCX ノードでこのコマンドを個別に実行します。

コマンド構文

utils uccx security_filter disable

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils uccx security_filter disable
The status of security filter is: disabled
Please restart Unified CCX service using
'utils service restart Cisco Tomcat' for changes to take effect.
In case of Cisco Unified CCX HA cluster, set the security filter in
remote node as well.
```

utils uccx security_filter status

Unified CCX 管理のセキュリティ フィルタ フラグのステータスを確認するには、次のコマンドを実行します。

コマンド構文

utils uccx security_filter status

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用：不可

例

```
admin:utils uccx security_filter status
uccx security filter is :enabled
```

utils uccx dbreplication dump configfiles

テキストファイルに dbreplication コンフィギュレーションファイルのデータを追加するには、このコマンドを実行します。このコマンドは、Unified CCX のハイ アベイラビリティ展開でのみ利用できます。

コマンド構文

utils uccx dbreplication dump configfiles

要件

レベル特権：1

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

例

```
admin:utils uccx dbreplication dump configfiles
Command Started
Output is in file: DbConfigFiles_120813161827.txt
Use "file view activelog uccx/cli/DbConfigFiles_120813161827.txt" command
to view the file
Use "file get activelog uccx/cli/DbConfigFiles_120813161827.txt" command
to get the file
Command Successful
```

utils uccx database healthcheck

このコマンドは、Unified CCX データベースの健全性を確認する、データベース健全性チェックスクリプトを実行します。

このコマンドの実行後に、健全性チェック レポートが生成されます。このスクリプトで問題が検出された場合は、健全性チェック レポートに記録されます。健全性チェック レポート ファイルに報告された問題に推奨されるソリューションで構成されるソリューションファイルも生成されます。

コマンド構文

utils uccx database healthcheck

要件

レベル特権：1

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

例

```
admin:utils uccx database healthcheck
Command Started
This command may take few minutes to complete
UCCX database health report is available at:
/var/log/active/uccx/cli/healthcheck.rpt
UCCX database health report suggested solutions is available at:
/var/log/active/uccx/cli/healthcheck.soln
Use "file view activelog uccx/cli/healthcheck.rpt" command to view the
file
Use "file get activelog uccx/cli/healthcheck.rpt" command to get the file
Use "file view activelog uccx/cli/healthcheck.soln" command to view the
file
Use "file get activelog uccx/cli/healthcheck.soln" command to get the
file
Command Successful
```

utils uccx database dbperf start

Unified CCX サーバの CPU およびデータベースの使用率を監視するには、このコマンドを実行します。

このコマンドの実行後、正常に実行されたことを示すメッセージが画面に表示されます。このコマンドは、コマンドで指定した合計実行時間にわたって定期的にバックグラウンドで実行し、CPU とデータベースの使用率に関連する詳細情報で構成されるファイルを生成します。

コマンド構文

utils uccx database dbperf start totalHours interval

引数

- **Interval** : 実行または操作間の時間。
- **TotalHours** : 実行の合計時間。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用：不可

例

```
admin: utils uccx database dbperf start 10 20
The script runs every 20 minutes over a total duration of 10 hours.
Please collect files after 10 hours
Use "file get activelog uccx/cli/dbperf_250913131546.log" to get the file
Use "file view activelog uccx/cli/dbperf_250913131546.log" to view the
file
Command Successful
```


utils uccx database dbperf stop

このコマンドは、完全に実行される前に **utils uccx database dbperf start** の現在のアクティブなインスタンスを停止するのに使用します。

コマンド構文

utils uccx database dbperf stop

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils uccx database dbperf stop
Execution of dbperf has been stopped
Command Successful
```

file コマンド

file コマンドは UCCX ファイル システムの特定のディレクトリに保存されるカスタム ファイルの作成に役立ちます。

file uccx view

Unified CCX スクリプトで作成したカスタム ファイルを表示するには、このコマンドを使用します。

コマンド構文

file uccx view custom_file file-spec

引数

file-spec : (必須) 表示するファイル。file-spec は、単一のファイルに解決される必要があります。file-spec にはワイルドカードとしてアスタリスク (*) を含めることができますが、単一ファイルに解決されることが条件です。

オプション

なし

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:file uccx view custom_file test.txt
```

file uccx list custom_file

このコマンドは、Unified CCX スクリプトで作成されたカスタム ファイルを一覧表示します。

コマンド構文

file uccx list custom_file file-spec[options]

引数

file-spec : (必須) 表示するファイル。file-specにはワイルドカードとしてアスタリスク (*) を含めることができます。

オプション

page : 出力を一時停止します。

detail : 詳細なリストを表示します。

reverse : 表示を逆順序に並べ替えます。

date : 日付で並べ替えます。

size : サイズで並べ替えます。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:file uccx list custom_file * detail
08 Dec,2009 16:56:11 0 text.txt

dir count = 0, file count = 1
```

file uccx list prompt_file

このコマンドは、さまざまなロケール用に作成されたプロンプト ファイルを一覧表示します。

コマンド構文

file uccx list prompt_file file_spec [options]

引数

file-spec : (必須) 表示するファイル。file-specにはワイルドカードとしてアスタリスク (*) を含めることができます。

オプション

page : 出力を一時停止します。

detail : 詳細なリストを表示します。

reverse : 表示を逆順序に並べ替えます。

date : 日付で並べ替えます。

size : サイズで並べ替えます。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:file uccx list prompt_file system/G711_ULAW/en_US detail
16 May,2012 17:50:19 <dir> AA
16 May,2012 17:50:19 <dir> ICD
16 May,2012 17:50:19 <dir> ICM
16 May,2012 17:50:19 <dir> SNU
16 May,2012 17:50:19 <dir> SSA
16 May,2012 17:50:19 <dir> UserDialog
16 May,2012 17:50:19 <dir> gen
05 Dec,2002 06:19:03 13,822 continue_enter_number.wav
05 Dec,2002 06:19:03 7,280 credit_of.wav
05 Dec,2002 06:19:04 18,310 did_not_hear_name.wav
05 Dec,2002 06:19:04 11,430 enter_phone_number.wav
05 Dec,2002 06:19:05 12,926 finished.wav
05 Dec,2002 06:19:05 4,448 goodbye.wav
05 Dec,2002 06:19:06 8,546 name_cancelled.wav
05 Dec,2002 06:19:06 47,572 name_confirm.wav
05 Dec,2002 06:19:07 22,990 name_not_found.wav
05 Dec,2002 06:19:08 36,142 no_phone_number.wav
05 Dec,2002 06:19:08 3,902 of.wav
05 Dec,2002 06:19:09 5,492 past.wav
05 Dec,2002 06:19:09 5,110 pound.wav
05 Dec,2002 06:19:10 8,070 spell.wav
05 Dec,2002 06:19:10 11,524 spell_again.wav
05 Dec,2002 06:19:11 12,724 spell_another.wav
05 Dec,2002 06:19:11 5,596 star.wav
05 Dec,2002 06:19:12 45,074 system_problem.wav
05 Dec,2002 06:19:12 5,038 thankyou.wav
05 Dec,2002 06:19:13 8,910 try_again.wav
05 Dec,2002 06:19:14 51,810 unrecov_error_rec.wav
05 Dec,2002 06:19:14 5,216 welcome.wav
dir count = 7, file count = 22
admin:
```

file uccx get

このコマンドは、ボックス外の Unified CCX スクリプトで作成したカスタム ファイルを転送します。

コマンド構文

file uccx get custom_file file-spec [options]

引数

file-spec : (必須) 転送するファイル。file-spec にはワイルドカードとしてアスタリスク (*) を含めることができます。

オプション

reltime : (必須) 転送するファイル。file-spec にはワイルドカードとしてアスタリスク (*) を含めることができます。

abstime : (必須) フィルタの絶対時間。

match : フィルタの検索パターン。

recurs : file-spec とサブディレクトリにあるすべてのファイルを取得します。

compress : 圧縮ファイルとしてファイルを転送します。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:file uccx get custom_file text.txt abstime 00:00:12/01/08
01:00:12/30/08
```

file uccx tail

このコマンドは、Unified CCX スクリプトで作成されたカスタム ファイルの末尾を表示します。

コマンド構文

file uccx tail custom_file file-spec [options]

引数

file-spec : (必須) 末尾を表示するファイル。

オプション

hex、**[num lines]**、**regexp "expression"**

recent : ディレクトリで最近変更されたファイルの末尾を表示します。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

最後の 10 行から改ページを有効にしてファイルの末尾を表示 :

```
admin:file uccx tail custom_file text.txt page 102005-08-03 15:01:41,248
DEBUG [main] - cmdMVL size = 0
2005-08-03 15:01:41,248 INFO [main] - adding command in level3
(password/security)
2005-08-03 15:01:41,249 DEBUG [main] - begin for level4, topVL size = 0
2005-08-03 15:01:41,250 DEBUG [main] - begin for level4, topVL size = 0
2005-08-03 15:01:41,256 DEBUG [main] - begin for level3, topVL size = 0
2005-08-03 15:01:41,257 DEBUG [main] - begin for level2, topVL size = 0
2005-08-03 15:01:41,884 INFO [main] - merging complete
2005-08-03 15:06:27,619 INFO [main] - got to save history
2005-08-03 15:06:27,620 INFO [main] - Exiting CLI
```

file uccx dump

このコマンドは、Unified CCX カスタム ファイル領域にあるファイルの内容をダンプします。

コマンド構文

file uccx dump custom_file file-spec [options]

引数

file-spec : (必須) ダンプするファイル。

オプション

hex、regexp "expression"

recent : ディレクトリで最近変更されたファイルをダンプします。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:file uccx dump custom_file text.txt
23640935: Dec 06 22:59:43.407 IST Unable to process call,
Exception=java.lang.NullPointerException
23640936: Dec 06 22:59:43.407 IST java.lang.NullPointerException
```

file uccx delete

このコマンドは、Unified CCX スクリプトで作成されたカスタム ファイルを削除します。このコマンドは、Unified CCX カスタム ファイルの領域にある 1 つ以上のファイルを削除します。



(注) 使用中のファイルは削除できません。

コマンド構文

file uccx delete custom_file file-spec [options]

引数

file-spec : (必須) 削除するファイル。file-spec では、アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。

オプション

detail、noconfirm

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:file uccx delete custom_file log/*.log det noconfirmdeleting file
: log/cli00001.log
deleting file : log/cli00002.log
deleting file : log/cli00003.log
deleting file : log/cli00004.log
files:          found = 4, deleted = 4
```

ハイ アベイラビリティ コマンド

show uccx dbreplication tables

このコマンドは、Unified CCX のハイ アベイラビリティ展開でのみ利用できます。このコマンドは、ハイアベイラビリティ展開のレプリケーションに関連するすべてのデータベーステーブルを一覧表示します。

コマンド構文

show uccx dbreplication tables [options]

オプション

Page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

File : 出力をファイルに保存し、ファイル名を表示します。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx dbreplication tables
This operation may take a few minutes to complete.Please wait...

CURRENTLY DEFINED REPLICATES
-----
REPLICATE:
template_db_cra_pshree_dactyl_sub_uccx_1_2_agentstatedetail
STATE:      Active ON:g_pshree_dactyl_pub_uccx
CONFLICT:   Timestamp
FREQUENCY:  immediate
QUEUE SIZE: 0
PARTICIPANT: db_cra:informix.agentstatedetail
OPTIONS:    transaction,ris,ats,fullrow
REPLID:     131075 / 0x20003
REPLMODE:   PRIMARY ON:g_pshree_dactyl_pub_uccx
APPLY-AS:   INFORMIX ON:g_pshree_dactyl_pub_uccx
REPLTYPE:   Master

.....
.....
.....

REPLICATE:
template_fcrassvr_pshree_dactyl_sub_uccx_3_3_fcrascallogweek
STATE:      Active ON:g_pshree_dactyl_pub_uccx
CONFLICT:   Timestamp
FREQUENCY:  immediate
QUEUE SIZE: 0
PARTICIPANT: fcrassvr:informix.fcrascallogweek
OPTIONS:    transaction,ris,ats,fullrow
REPLID:     131104 / 0x20020
REPLMODE:   PRIMARY ON:g_pshree_dactyl_pub_uccx
APPLY-AS:   INFORMIX ON:g_pshree_dactyl_pub_uccx
REPLTYPE:   Master

Command successful.
admin:
```

show uccx dbreplication servers

このコマンドは、Unified CCX のハイ アベイラビリティ展開でのみ利用できます。このコマンドは、ハイアベイラビリティ展開でのレプリケーションに関与しているすべてのデータベースサー

バと、レプリケーションがまだ接続されているか、またはレプリケーションが切断されているかを一覧表示します。

コマンド構文

show uccx dbreplication servers [options]

オプション

- **Page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。
- **File** : 出力をファイルに保存し、ファイル名を表示します。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show uccx dbreplication servers
SERVER                ID STATE   STATUS      QUEUE  CONNECTION  CHANGED
-----
10.76.253.106         110 Active   Connected   0 Apr  7 22:01:19
10.76.253.107         100 Active   Local       0
```

utils uccx modify remote_IPAddress

このコマンドは、Unified CCX のハイ アベイラビリティ展開でのみ利用できます。このコマンドは、サーバのリモート ノードの IP アドレスを更新します。リモート ノードの IP アドレスの変更時に、このコマンドを使用します。



(注) 他のノードの IP アドレスを変更するときのみ、このコマンドを使用します。

このコマンドの実行後に、Unified CCX サーバをリブートし、すべての Unified CCX サービスを再起動します。

コマンド構文

utils uccx modify remote_IPAddress <remote_server_old_ip_address> <remote_server_new_ip_address>

引数

remote_server_old_ip_address : リモート サーバの古い IP アドレス

remote_server_new_ip_address : リモート サーバの新しい IP アドレス

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用：不可

例

```
admin:utils uccx modify remote_IPAddress 10.76.253.82 10.76.253.83
Old Remote IP Address: 10.76.253.82
New Remote IP Address: 10.76.253.83
```

This command should be executed only in case you are changing IP Address of remote server.

Are you sure you want to run this command?

Continue (y/n)?y

Command successful.

utils uccx modify remote_hostname

このコマンドは、Unified CCX のハイ アベイラビリティ展開でのみ利用できます。このコマンドは、サーバのリモートノードのホスト名を更新します。リモートノードのホスト名の変更時に、このコマンドを使用します。



(注) 他のノードのホスト名が変更された場合にのみ、このコマンドを使用します。

このコマンドの実行後に、Unified CCX サーバをリブートし、すべての Unified CCX サービスを再起動します。

コマンド構文

```
utils uccx modify remote_hostname <remote_server_old_hostname> <remote_server_new_hostname>
```

引数

remote_server_new_hostname : リモートサーバの新しいホスト名

remote_server_old_hostname : リモートサーバの古いホスト名

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils uccx modify remote_hostname uccx-node-1 uccx-node-2
Old Remote Hostname: uccx-node-1
New Remote Hostname: uccx-node-2
```

This command should be executed only in case you are changing Host name of remote server.

Are you sure you want to run this command?

Continue (y/n)?y

Command Successful.

utils uccx database forcedatasync

このコマンドは、クラスタ内の他のノードからデータを取得し、このノードのデータを効果的に上書きします。

コマンド構文

utils uccx database forcedatasync

引数

なし

オプション

なし

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin: utils uccx database forcedatasync
Are you sure you want to overwrite the local database?(y/n).
Command successful.
```

utils uccx setuppubrestore

このコマンドは、Unified CCX クラスタ ノード間のパスワードを使用しない通信を設定します。パスワードを使用しない通信には、復元操作を実行する必要があります。サブスクライバノードでのみこのコマンドを実行します。このコマンドは、「Publisher Only」オプションを使用した復元の実行中に使用します。



(注) このコマンドは、ハイ アベイラビリティ モードでのみ使用できます。

コマンド構文

utils uccx setuppubrestore

例

```
admin:utils uccx setuppubrestore
```

utils uccx dbreplication setup

このコマンドは、Unified CCX のハイ アベイラビリティ展開でのみ利用できます。このコマンドは、データベース レプリケーションを設定するために使用します。このコマンドはどのノードでも実行でき、クラスタ内でのデータベース レプリケーションを設定します。

コマンド構文

utils uccx dbreplication setup

オプション

Page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils uccx dbreplication setup
The DB replication for the UCCX cluster has been setup.
```

utils uccx dbreplication status

このコマンドは、Unified CCX のハイ アベイラビリティ展開でのみ利用できます。このコマンドを使用して、Unified CCX データベースのレプリケーション ステータスを確認します。

コマンド構文

utils uccx dbreplication status

オプション

なし

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
utils uccx dbreplication status
SERVER                ID STATE    STATUS    QUEUE    CONNECTION CHANGED
-----
g_alpha_ha_n1_uccx    1 Active   Connected 0 Aug  8 18:45:26
g_alpha_ha_n2_uccx    2 Active   Local      0
```

REPLICATE	STATE
db_cra:informix.agentconnectiondetail	Active
db_cra:informix.contactcalldetail	Active
db_cra:informix.contactroutingdetail	Active
db_cra:informix.eememailstatusdescription	Active
db_cra:informix.eemreasoncodedescription	Active
db_cra:informix.eemcontactemaildetail	Active
db_cra:informix.eememailagentstatedetail	Active
db_cra_repository:informix.promptsfoldertbl	Active
db_cra_repository:informix.promptsfiletbl	Active
db_cra_repository:informix.grammarsfiletbl	Active
db_cra_repository:informix.documentsfiletbl	Active
db_cra_repository:informix.sysgrammarsfiletbl	Active
db_cra_repository:informix.latestsynchedtime	Active
fcrassvr:informix.fcrascallogweek	Inactive
fcrassvr:informix.fcrasrecordlog	Inactive
fcrassvr:informix.latestsynchedtime	Inactive
db_cra:informix.agentstatedetail	Active
db_cra_repository:informix.scriptsfiletbl	Active
fcrassvr:informix.fcrascallogtoday	Inactive
db_cra:informix.monitoredresourcedetail	Active
db_cra:informix.latestsynchedtime	Active
db_cra:informix.eemactiveemail	Active
db_cra_repository:informix.grammarsfoldertbl	Active
db_cra_repository:informix.documentsfoldertbl	Active
db_cra_repository:informix.scriptsfoldertbl	Active
fcrassvr:informix.fcrasstateloggotoday	Inactive
db_cra:informix.contactqueuedetail	Active
db_cra:informix.remotemonitoringdetail	Active
db_cra:informix.eemstatedescription	Active
db_cra:informix.eemqueueagentdetail	Active
db_cra_repository:informix.sysgrammarsfoldertbl	Active

utils uccx dbreplication templatestatus

このコマンドは、Unified CCX のハイ アベイラビリティ展開でのみ利用できます。このコマンドは、データベースレプリケーションのテンプレートステータスを確認するために使用されます。

コマンド構文

utils uccx dbreplication templatestatus

オプション

Page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils uccx dbreplication templatestatus
The DB replication templatestatus is as follows.
```

utils uccx dbreplication repair

このコマンドは、Unified CCX のハイ アベイラビリティ展開でのみ利用できます。すべてのノード上でこのコマンドを実行できます。このコマンドは、クラスタ ノード間で一致しないデータを修復します。レプリケーション設定は修復しません。このコマンドは、バックグラウンドで実行する修復を開始します。修復プロセスのステータスを監視するには、ユーザが Serviceability Administration のデータストア コントロールセンターにアクセスする必要があります。詳細については、次の URL で入手可能な『Cisco Unified CCX Serviceability Administration Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/custcosw/ps1846/products_installation_and_configuration_guides_list.html

コマンドの構文：

utils uccx dbreplication repair [database_name]all

引数

[database_name]all：（必須）レプリケーションを修復するデータベースの Database_name。（引数）all：すべてのノードのレプリケーションを修復します。

オプション

Page：出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権：1

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

例

```
admin:utils uccx dbreplication repair all
Repair has been initiated in the background...
Please go to Data Control Center in Serviceability Admin to monitor the
status of the repair.
```

utils uccx dbreplication start

このコマンドは、Unified CCX のハイ アベイラビリティ展開でのみ利用できます。このコマンドは、データベース レプリケーションを開始するために使用します。任意のノードでこのコマンドを実行して、クラスタ全体のデータベース レプリケーションを開始します。

コマンド構文

utils uccx dbreplication start

オプション

Page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils uccx dbreplication start
The DB replication for the UCCX cluster has been started.
```

utils uccx dbreplication stop

このコマンドは、Unified CCX のハイ アベイラビリティ展開でのみ利用できます。このコマンドは、データベース レプリケーションを停止するために使用されます。クラスタ全体でデータベース レプリケーションを停止するには、任意のノードでこのコマンドを実行します。

コマンド構文

utils uccx dbreplication stop

オプション

Page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils uccx dbreplication stop
The DB replication for the UCCX cluster has been stopped.
```

utils uccx dbreplication reset

このコマンドは、Unified CCX のハイ アベイラビリティ展開でのみ利用できます。このコマンドは、データベース レプリケーションをリセットするために使用します。レプリケーションのリセットには、示されている順序での次のアクティビティが含まれています。これらのアクティビティは括弧で囲まれたコマンドと同等です。

- データベース レプリケーションの削除 (utils uccx dbreplication teardown)
- データベース レプリケーションの設定 (utils uccx dbreplication setup)
- すべてのデータベースに対するデータ修復プロセスの開始 (utils uccx dbreplication repair all)

コマンド構文

utils uccx dbreplication reset

オプション

Page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils uccx dbreplication reset
The DB replication for the UCCX cluster has been reset.
```

utils uccx dbreplication teardown

このコマンドは、Unified CCX のハイ アベイラビリティ展開でのみ利用できます。このコマンドは、データベース レプリケーションを削除するために使用します。クラスタがあるノード上でこのコマンドを実行すると、すべてのノード間でデータベースのレプリケーションが削除されます。

コマンド構文

utils uccx dbreplication teardown

オプション

page : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:utils uccx dbreplication teardown
The DB replication for the UCCX cluster has been teardown.
```

Cisco Finesse のコマンド**utils reset_3rdpartygadget_password**

3rdpartygadget アカウントのパスワードを設定またはリセットするには、このコマンドを実行します（ここで、password はアカウントの新しいパスワードです）。

Cisco Finesse のガジェットを使用できるように、Cisco Unified CCX サーバへサードパーティ ガジェットをアップロードするには、3rdpartygadget アカウントを使用します。このアカウントを使用する前に、パスワードを設定する必要があります。



(注) パスワードの長さは 5 ～ 32 文字の範囲とします。スペースまたは二重引用符は含めないでください。

コマンド構文

utils reset_3rdpartygadget_password

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

```
admin: utils reset_3rdpartygadget_password
New Password:
Confirm New Password:

Updating password for 3rdpartygadget...

Password updated successfully.
admin
```



(注) ユーザが入力したパスワード値は、コンソールでエコーされません。

Cisco Unified Intelligence Center のコマンド

show cuic component-status

このコマンドは、Unified Intelligence Center のコンポーネントのステータスを表示します。 *Component name* パラメータは必須です。

コマンド構文

show cuic component-status *Component name*

コンポーネント名

- **CuicStatus** : Unified Intelligence Center Web エンジンと DB レプリケーションのステータスを示します。
- **DBRepStatus** : このノードでデータベース レプリケーションのステータスを表示します。

- **DBStatus** : データベースのステータスを示します。
- **EmailStatus** : 電子メールのコンポーネントのステータスを示します。
- **SchedulerStatus** : レポート スケジューラのステータスを表示します。
- **DataSourceConnectionStatus** : データ ソースの接続ステータスを表示します。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:show cuic component-status EmailStatus
```

show cuic properties

このコマンドは、Cisco Unified Intelligence Center のプロパティに関する情報を表示します。

コマンド構文

show cuic properties [options]

オプション

- **host-to-ip** : クラスタ内の Cisco Unified Intelligence Center データベースの現在のホストから IP へ変換します。
- **http-enabled** : http 対応プロパティに設定されている現在の値により、*on* 値または *off* 値を表示します。
- **purge-retention** : パージされるまで日数のデータを Cisco Unified Intelligence Center データベースに保持します。
- **purge-time** : Cisco Unified Intelligence Center データベースがパージされる時刻と分単位の間隔。
- **session-timeout** : Cisco Unified Intelligence Center Web アプリケーションのセッション タイムアウト。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show cuic properties purge-retention  
purge_retention
```

```
=====
1
```

show cuic tech

コマンド構文

このコマンドは、Cisco Unified Intelligence Center 設定の、データベース テーブル、トリガー、プロシージャなどの技術的な詳細情報を表示します。

show cuic tech procedures

このコマンドは、データベースに対して使用されているストアードプロシージャを表示します。

show cuic tech systables

このコマンドは、Unified Intelligence Center データベース内のすべてのテーブルの名前を表示します。

show cuic tech dbschema

CSV ファイル中のデータベース スキーマを表示します。これは、.csv ファイルへの出力を表示します。

show cuic tech table table_name

このコマンドは、Unified Intelligence Center データベースのテーブルの内容を表示します。これは、.out ファイルへの出力を表示します。

show cuic tech triggers

このコマンドは、Unified Intelligence Center テーブルの名前と、それらのテーブルに関連付けられているトリガーを表示します。

show cuic tech table cuicreport

このコマンドは、指定したデータベース テーブルの内容をファイルにリダイレクトします。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:show cuic tech dbschema
-----show cuic tech dbschema-----
Database schema
Output is in /cm/trace/dbi/dbSchema1331705967878.csv
Use "file view activelog/cm/trace/dbi/dbSchema1331705867878.csv" command
to see output
```

```
admin:show cuic tech systables
-----Show cuic tech system tables-----
SYSTEM TABLES
tablename
=====
```

```
GL_COLLATE
GL_CTYPE
VERSION
cdr_deltab_000657
cdr_deltab_000658
cdr_deltab_000659
cdr_deltab_000660
cdr_deltab_000661
cdr_deltab_000662
cdr_deltab_000663
cdr_deltab_000664
cdr_deltab_000665
cdr_deltab_000666
cdr_deltab_000667
cdr_deltab_000668
cdr_deltab_000669
cdr_deltab_000670
cdr_deltab_000671
cdr_deltab_000672
cdr_deltab_000673
cdr_deltab_000674
```

```
admin:show cuic tech table ?
```

Syntax:

```
show cuic tech table table_name
table_name mandatory table name
```

```
admin:show cuic tech triggers
```

```
-----show cuic tech triggers-----
```

Triggers

```
tablename trigger
```

```
=====
```

```
cuiccategory          tr_del_category
cuiccategory          tr_ins_category
cuiccategory          tr_upd_category
cuiccollection        tr_del_collection
cuiccollection        tr_ins_collection
cuiccollection        tr_upd_collection
cuicdashboard         tr_del_dashboard
cuicdashboard         tr_ins_dashboard
cuicdashboard         tr_upd_dashboard
cuicdatasource        tr_del_datasource
cuicdatasource        tr_ins_datasource
cuicdatasource        tr_upd_datasource
cuicreport            tr_del_report
cuicreport            tr_ins_report
cuicreport            tr_upd_report
cuicreportdefinition tr_del_reportdefinition
cuicreportdefinition tr_ins_reportdefinition
cuicreportdefinition tr_upd_reportdefinition
cuicuser              tr_upd_userdefaultgroup
cuicvaluelist         tr_del_valuelist
cuicvaluelist         tr_ins_valuelist
```

show cuic trace

このコマンドは、特定のサブシステムのログレベルとトレースマスクを表示します。ログレベルを [DEBUG] に設定している場合は、トレースマスクが表示されます。ログレベルを [INFO] に設定している場合は、トレースマスクは表示されません。

コマンドでは大文字と小文字が区別され、コントローラ ノードでのみ実行できます。

メンバーノードでトレースを設定するには、Operations Console コマンドの [Device Management] > [Log And Trace Settings] を使用します。

コマンド構文

show cuic trace cuicserver [options]

オプション

これは、Unified Intelligence Center のサブシステムで構成されます。次のさまざまなサブシステムが利用できます。

- CUIC
- Infrastructure
- CUIC_MODEL_OBJECTS
- CUIC_DATA_PROCESSING
- CUIC_SECURITY
- CUIC_DISPLAY
- CUIC_MIGRATION
- CUIC_USER_HISTORY
- CUIC_JSP
- CUIC_STATISTICS

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:show cuic trace cuicserver Infrastructure
Log levels are not set - assumed to be Basic
Since log level is basic trace masks are not in effect for Infrastructure
```

set cuic properties

Unified Intelligence Center データベースとセッションタイムアウトの値を設定するには、以下のコマンドを使用します。

コマンド構文

set cuic properties host-to-ip

パラメータ

host : データ ソースインターフェイスに表示される、サーバのホスト DNS 名の値を入力します。

ip_address : 履歴データベースまたはリアルタイム データベースのサーバの IP アドレスを入力します。

set cuic properties session-timeout

パラメータ

#numberofSeconds : このコマンドは、Unified Intelligence Center Reporting Web アプリケーションのセッション タイムアウトを設定します。デフォルトは 14,400 秒（4 時間）です。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:set cuic properties session-timeout 1900
Value has been successfully set
```

unset cuic properties

Host-to-IP ホスト名変換を設定解除するには、このコマンドを使用します。

コマンド構文

unset cuic properties host-to-ip [hostname]

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:unset cuic properties host-to-ip ccxbox1
```

set cuic syslog

コマンド構文

set cuic syslog [**disable**|**enable**]

オプション

- **disable** : Cisco Unified Intelligence Center アプリケーションのリモート syslog を無効にします。
- **enable** : Cisco Unified Intelligence Center アプリケーションのリモート syslog を有効にします。

要件

レベル特権 : 0

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:set cuic syslog enable
```

set cuic trace

以下のコマンドは、2つのサーバプロセス（cuicserver および oampserver）のサブシステムのログレベルとトレース設定を、基本または詳細に設定（あるいは変更）するのに使用します。

コマンド構文

set cuic trace basic *cuicserver* [*subsystem*] *none*

set cuic trace basic *oampserver* [*subsystem*] *none*

set cuic trace infrastructure *cuicserver* [*subsystem*] [*TRACE_FLAGS* | *none*]

set cuic trace infrastructure *oampserver* [*subsystem*] [*TRACE_FLAGS* | *none*]

set cuic trace subsystem *cuicserver* [*subsystem*] [*trace_mask1* *trace_mask2*]

set cuic trace subsystem *oampserver* [*subsystem*] [*trace_mask1* *trace_mask2*]

cuicserver の場合の有効なサブシステムは次のとおりです。

- Infrastructure
- CUIC
- CUIC_MODEL_OBJECTS
- CUIC_DATA_PROCESSING
- CUIC_SECURITY
- CUIC_DISPLAY
- CUIC_MIGRATION

- CUIC_USER_HISTORY
- CUIC_JSP
- CUIC_STATISTICS

oampserver の場合の有効なサブシステムは次のとおりです。

- Infrastructure
- OAMP_BO
- OAMP
- WSM_BO

詳細ログレベルは、トレースフラグを有効にすることで設定します。これにより、デバッグ文がログに表示されるようになります。特定のサブシステムコンポーネント内の特定の機能（TRACE フラグ名で指定）のデバッグトレースを制御できます。

basic : トレースの基本レベルを設定することを示します。この設定により、メッセージと警告が表示されます。

detailed : デバッグレベルを設定することを示し、特定のコンポーネントのトレースをオンにできるようにします。

subsystem : 設定するサブシステムを示し、有効なすべてのサブシステムのリストを表示します。

none : トレースのフラグを設定しないことを示します。

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:set cuic trace basic cuicserver CUIC_SECURITY
Log level updated successfully.Trace masks are cleared
```

utils cuic purge

コマンド構文

utils cuic purge

このコマンドは、**cuic** データベース テーブルの手動パージを実行します。データベースが満杯になりつつあるというアラートを受け取り、日次自動パージまで待機しない場合は、手動パージを実行できます。

パージされるテーブルは次のとおりです。

- CuicDataSetInfo
- CuicDataSet

- CuicReportDefinitionFilter
- CuicReportDefinitionFilterField
- CuicReportDefinitionFilterParameter
- CuicCollection
- CuicCollectionValue

このコマンドでは、管理ユーザのパスワードの入力が求められます。パスワードが確認されるとただちに、ページが実行されます。

オプション

なし

要件

レベル特権 : 1

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:utils cuic purge  
Executed Purge Sucessfully
```